

障害者の文化芸術活動の実施状況調査
－結果の概要－

令和8年3月31日

目 次

結果の概要

1. 障害児・者の属性 6

- (1) 障害の種類
- (2) 本人及び同居する家族における障害児・者の有無
- (3) 代理回答の状況
- (4) 障害児・者の性別
- (5) 障害児・者の年齢
- (6) 障害児・者の障害福祉サービス利用の状況

2. 文化芸術の直接鑑賞の実施状況 14

- (1) 文化芸術を直接鑑賞した割合とそのジャンル
- (2) 文化芸術を直接鑑賞した日数
- (3) 合理的配慮
- (4) 適切な合理的配慮の経験
- (5) 文化芸術を鑑賞しなかった理由
- (6) 直接鑑賞したい文化芸術
- (7) 4年前（2021年頃）と比較した、直接鑑賞に係る環境の変化
- (8) 文化芸術の直接鑑賞経験の整備状況で整ってきたと感じる理由
- (9) 2024年に文化芸術を直接鑑賞以外の方法で鑑賞した割合とそのジャンル

3. 鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況 29

- (1) 鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況の概要
- (2) 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況
- (3) 鑑賞以外の文化芸術活動を行った日数
- (4) 鑑賞以外の文化芸術活動を行わなかった理由
- (5) 鑑賞以外の文化芸術活動への参加・興味の有無
- (6) 4年前（2021年頃）と比較した鑑賞を除く、文化芸術活動に係る環境の変化
- (7) 4年前（2021年頃）と比較した鑑賞を除く、文化芸術活動に係る環境の変化
「以前より、実践・参加しやすくなった」「ややしやすくなった」

4. 障害者文化芸術推進法及び基本計画の認知 42

- (1) 「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（障害者文化芸術推進法）」の認知状況
- (2) 「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」の認知状況

5. 考察 44

- (1) 文化芸術の直接鑑賞経験についての考察
- (2) 文化芸術の直接鑑賞以外の経験についての考察
- (3) 合理的配慮についての考察
- (4) 環境整備についての考察
- (5) 障害者文化芸術推進法・基本計画の認知についての考察

主要統計表（障害の種類）

第1表	障害の種類、本人及び同居する家族における障害児・者の有無	51
第2表	障害の種類、障害児・者の性別	51
第3表	障害の種類、障害児・者の年齢	52
第4表	障害の種類、障害児・者の障害福祉サービス利用の状況	52
第5表	障害の種類、障害児・者の2024年に文化芸術を直接鑑賞した割合とそのジャンル	53
第6表	障害の種類、障害児・者の2024年に文化芸術を直接鑑賞した日数	53
第7表	障害の種類、障害児・者の合理的配慮を求めた経験	54
第8表	障害の種類、障害児・者の適切な合理的配慮の経験	54
第9表	障害の種類、障害児・者の2024年に文化芸術を直接鑑賞しなかった理由	55
第10表	障害の種類、障害児・者の今後直接鑑賞したい文化芸術	55
第11表	障害の種類、障害児・者の4年前（2021年頃）と比較した、直接鑑賞に係る環境の変化	56
第12表	障害の種類、障害児・者の文化芸術の直接鑑賞経験の整備状況で整ってきたと感じるもの	56
第13表	障害の種類、障害児・者の2024年に直接鑑賞以外の方法で鑑賞した文化芸術の割合とそのジャンル	57
第14表	障害の種類、障害児・者の2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施・参加状況	57
第15表	障害の種類、障害児・者の2024年の文化芸術活動の実践・参加状況（鑑賞以外） [創作活動]	58
第16表	障害の種類、障害児・者の2024年の文化芸術活動の実践・参加状況（鑑賞以外） [発表]	58
第17表	障害の種類、障害児・者の2024年の文化芸術活動の実践・参加状況（鑑賞以外） [その他の活動]	59
第18表	障害の種類、障害児・者の2024年に文化芸術を行った日数（鑑賞以外）	59
第19表	障害の種類、障害児・者の2024年の鑑賞以外の文化芸術活動を行わなかった理由	60
第20表	障害の種類、障害児・者の鑑賞以外の文化芸術活動への参加・興味の有無	60

付録 61

付1	障害者の文化芸術活動の実施状況調査の概要
付2	調査における割付と補正
付3	アンケート調査票

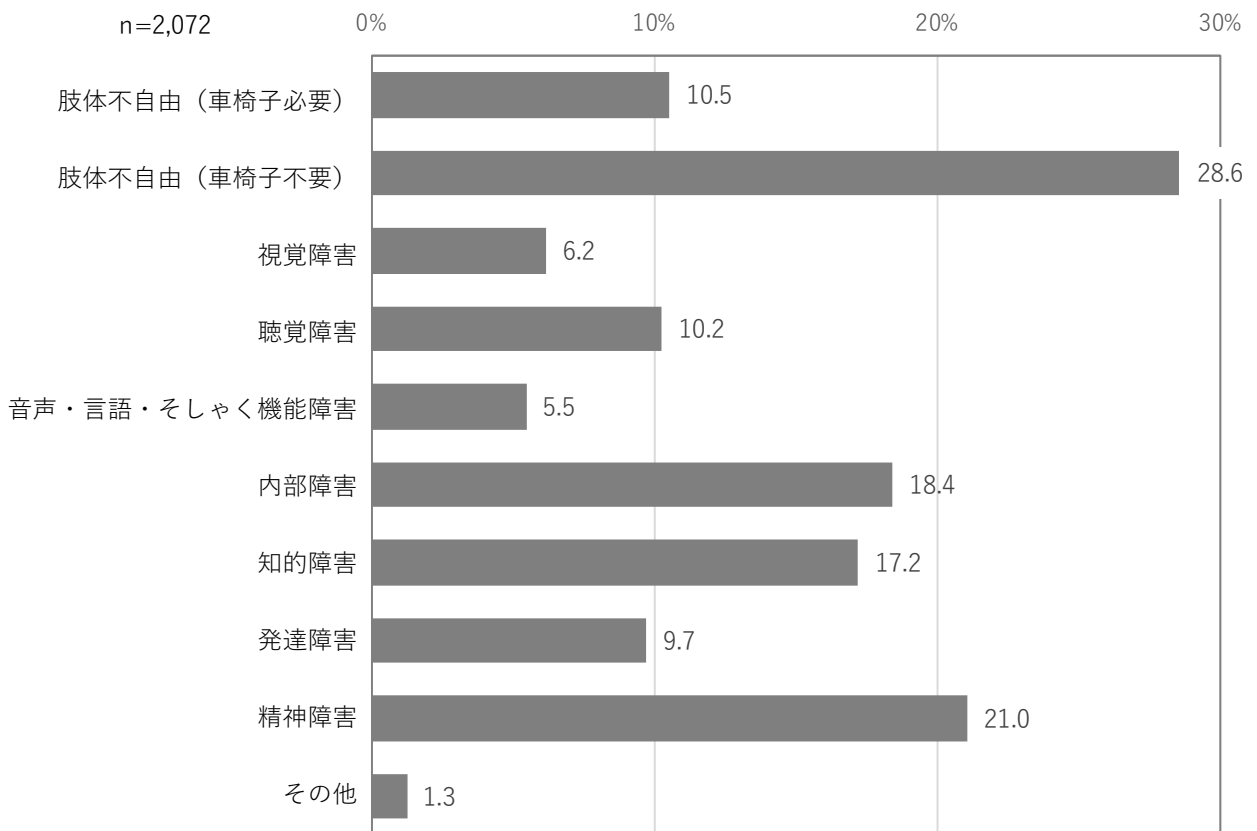
結果の概要

1. 障害児・者の属性

(1) 障害の種類

障害の種類は、肢体不自由（車椅子不要）（28.6%）の割合が最も高く、次いで「精神障害」（21.0%）、「内部障害」（18.4%）、「知的障害」（17.2%）、「肢体不自由（車椅子必要）」（10.5%）、「聴覚障害」（10.2%）、「発達障害」（9.7%）、「視覚障害」（6.2%）、「音声・言語・そしゃく機能障害」（5.5%）、「その他」（1.3%）の順になっている（図表 1-1）。

図表 1-1 障害の種類

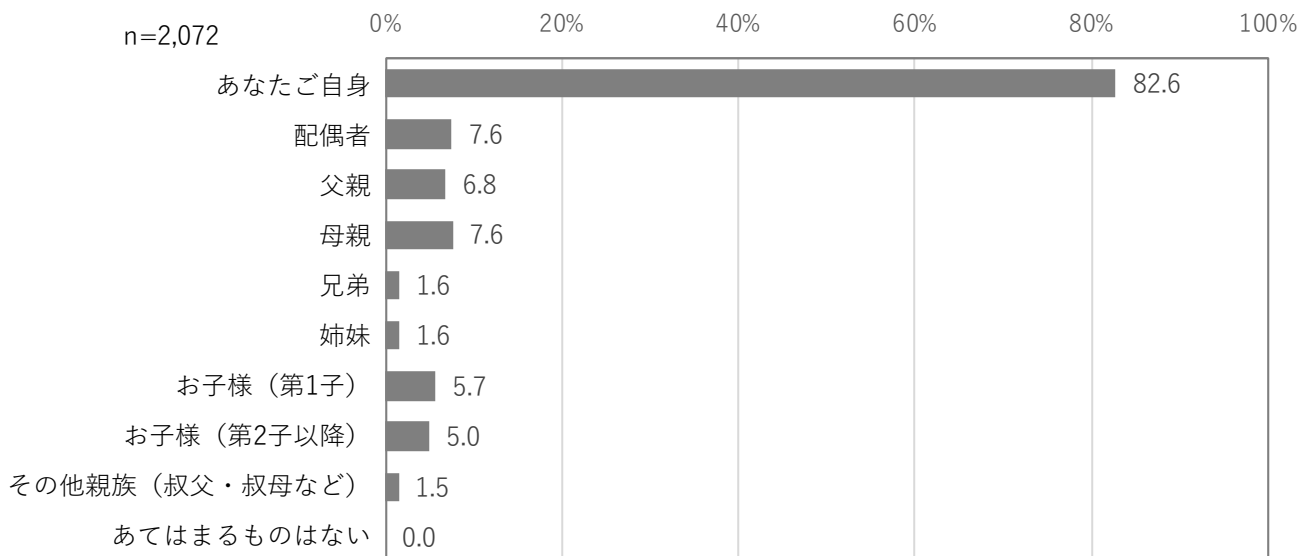


(2) 本人及び同居する家族における障害児・者の有無

回答者本人あるいは同居する家族において、障害児・者が「あなたご自身」(82.6%)である割合が最も高く、以下「配偶者」(7.6%)、「母親」(7.6%)、「父親」(6.8%)、「第1子」(5.7%)、「第2子以降」(5.0%)であった(図表1-2)。

障害の種類別では、いずれの種類においても「回答者自身」が障害者である割合が最も高い(図表1-3)。

図表 1-2 本人及び同居する家族における障害児・者の有無



図表 1-3 障害の種類、本人及び同居する家族における障害児・者の有無

障害の種類	n	あなたご自身	配偶者	父親	母親	兄弟	姉妹	(お子様 (第1子))	(お子様 (第2子以降))	(その他親族 (叔父・叔母など))	あてはまるものはない
全体	2,072	1,712	157	142	158	33	34	119	104	31	0
	100.0	82.6	7.6	6.8	7.6	1.6	1.6	5.7	5.0	1.5	0.0
肢体不自由 (車椅子必要)	218	73.5	12.7	6.3	17.7	1.8	2.4	7.5	6.9	2.4	0.0
肢体不自由 (車椅子不要)	592	85.0	7.6	9.2	8.0	0.7	0.5	3.5	2.2	1.8	0.0
視覚障害	128	79.3	5.2	12.8	9.2	2.1	1.4	5.2	4.4	2.5	0.0
聴覚障害	212	70.1	12.4	20.3	9.7	1.6	1.4	4.3	6.5	1.4	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	114	80.7	18.4	9.2	3.4	4.4	3.3	5.1	4.7	2.6	0.0
内部障害	381	87.3	4.9	9.6	9.3	0.8	2.7	3.5	5.4	0.7	0.0
知的障害	356	61.4	10.4	5.9	9.2	7.2	5.0	18.9	15.8	5.0	0.0
発達障害	202	77.9	9.0	5.2	7.6	5.0	3.8	19.0	14.5	3.3	0.0
精神障害	436	93.0	6.3	4.4	6.3	2.3	3.0	3.7	3.0	2.3	0.0
その他	26	86.2	0.2	0.0	1.7	2.0	0.0	8.5	8.6	2.8	0.0

(%)

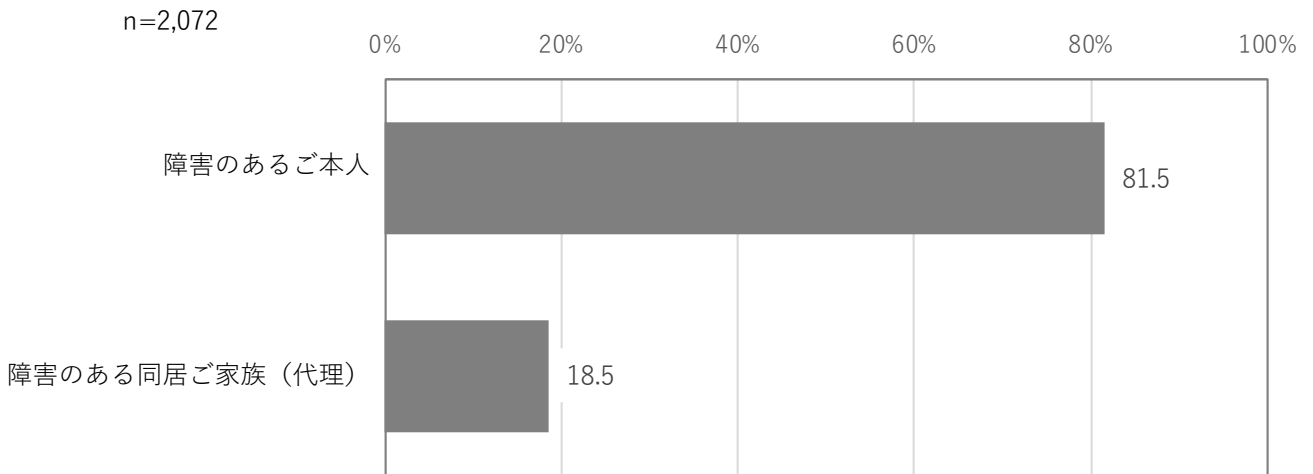
(3) 代理回答の状況

代理回答の割合は、「障害のある同居ご家族（代理）」が18.5%。（図表1-4）。

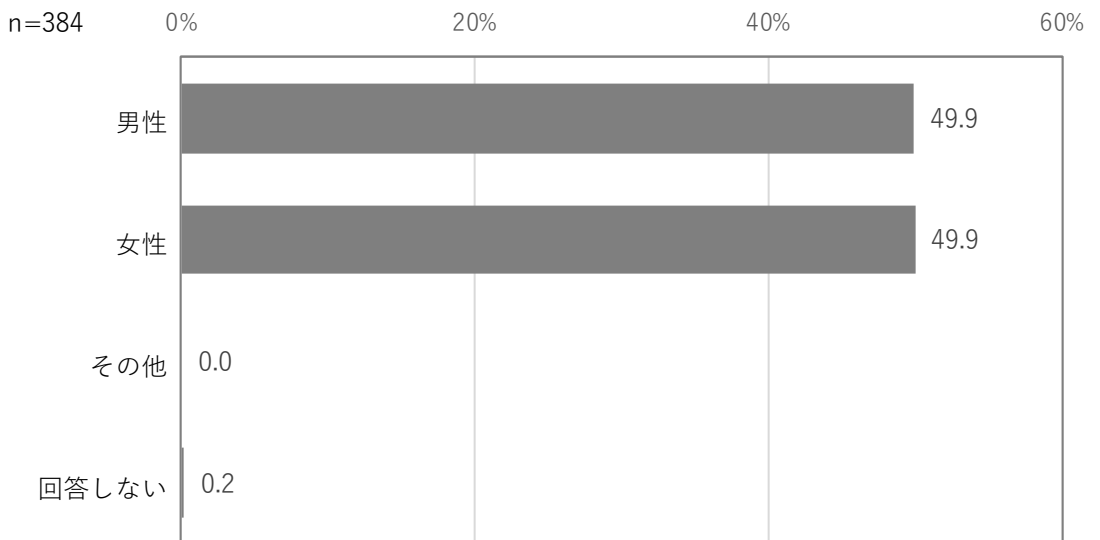
代理回答の対象者である障害者の性別は、「男性」（49.9%）、「女性」（49.9%）、「回答しない」（0.2%）で、男女の割合は同じ（図表 1-5）。

代理回答の対象者である障害者の年齢は、「70歳以上」（65.5%）が最も高く、次いで「10～15歳」（12.6%）、「20～29歳」（6.9%）、「60～69歳」（5.7%）の割合が高い（図表 1-6）。

図表 1-4 代理回答の状況

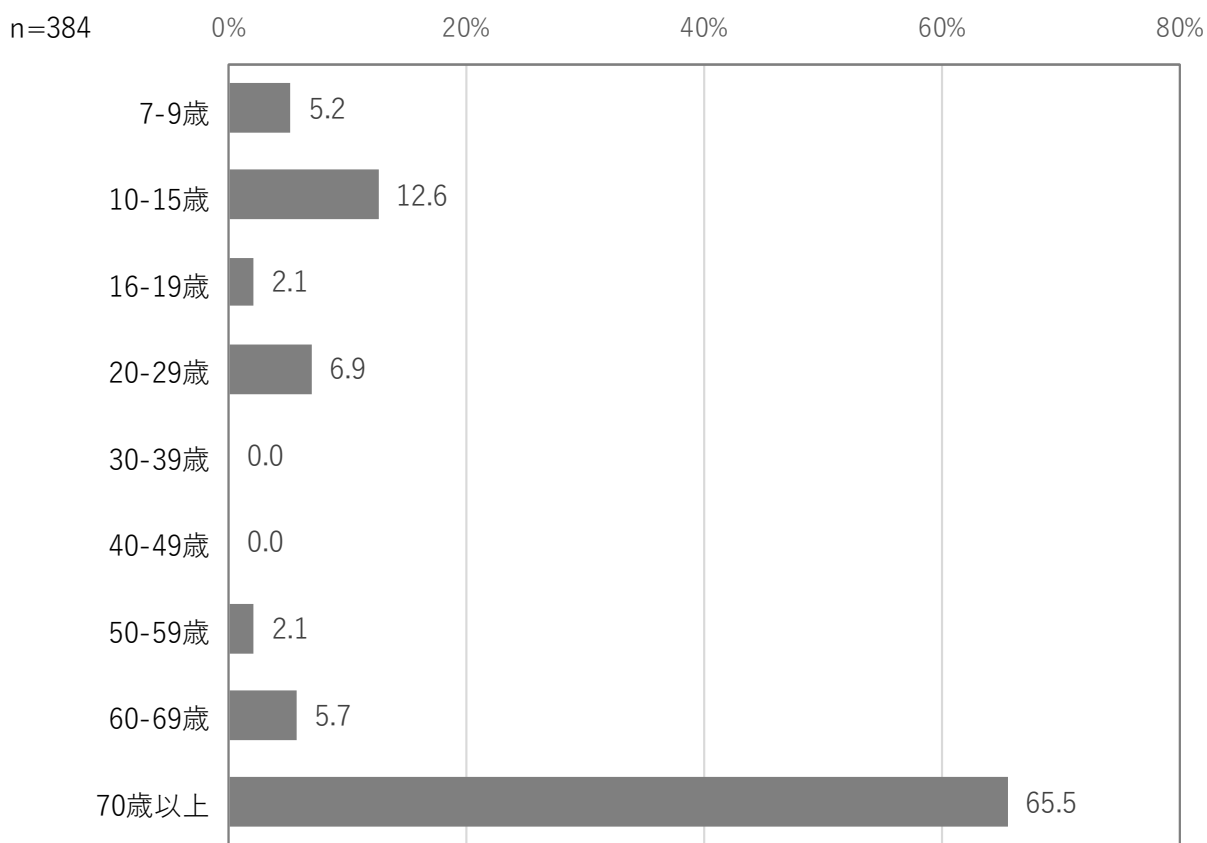


図表 1-5 代理回答の対象者である障害者の性別



※代理回答者ベース

図表 1-6 代理回答の対象者である障害者の年齢



※代理回答者ベース

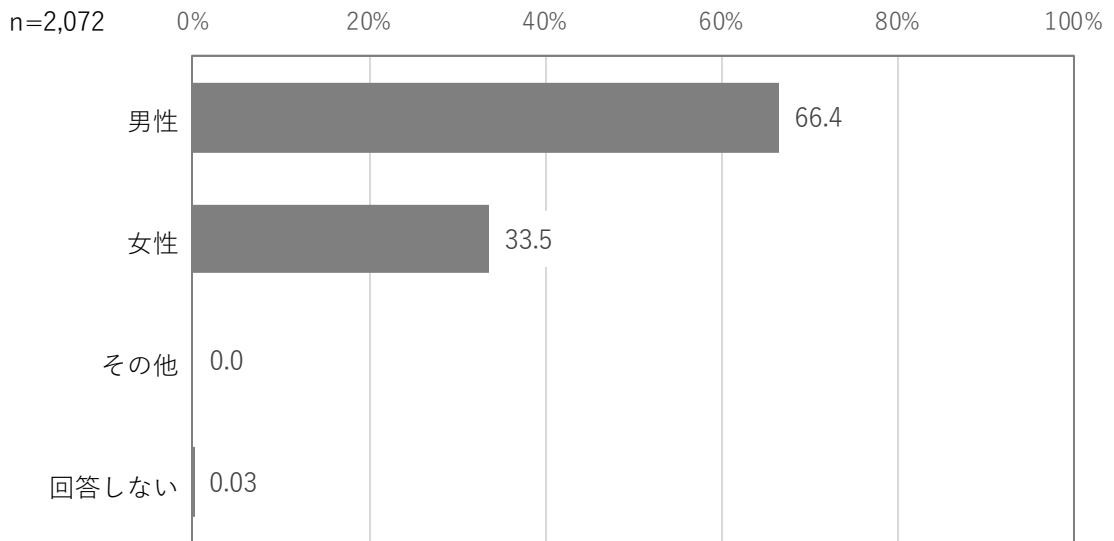
(4) 障害児・者の性別

障害児・者の性別は、「男性」(66.4%)、「女性」(33.5%)、「回答しない」(0.03%)で、男性の割合が比較的高い(図表 1-7)。

障害の種類別では、「男性」は「音声・言語・そしゃく機能障害」(77.1%)の割合が最も高く、次いで、「内部障害」(74.5%)、「視覚障害」(72.6%)、「肢体不自由(車椅子不要)」(72.1%)などの割合が高い。

また、「女性」は「発達障害」(44.6%)の割合が最も高く、次いで、「知的障害」(44.1%)、「精神障害」(43.0%)などの割合が高い(図表 1-8)。

図表 1-7 障害児・者の性別



図表 1-8 障害の種類、障害児・者の性別

障害の種類	n	男性	女性	その他	回答しない
		(%)	(%)	(%)	(%)
全体	2,072	1,377	695	0	1
	100.0	66.4	33.5	0.0	0.0
肢体不自由(車椅子必要)	218	61.5	38.5	0.0	0.0
肢体不自由(車椅子不要)	592	72.1	27.9	0.0	0.0
視覚障害	128	72.6	27.3	0.0	0.1
聴覚障害	212	72.0	28.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	114	77.1	22.7	0.0	0.1
内部障害	381	74.5	25.5	0.0	0.0
知的障害	356	55.8	44.1	0.0	0.1
発達障害	202	55.4	44.6	0.0	0.0
精神障害	436	57.0	43.0	0.0	0.0
その他	26	72.8	27.2	0.0	0.0

(%)

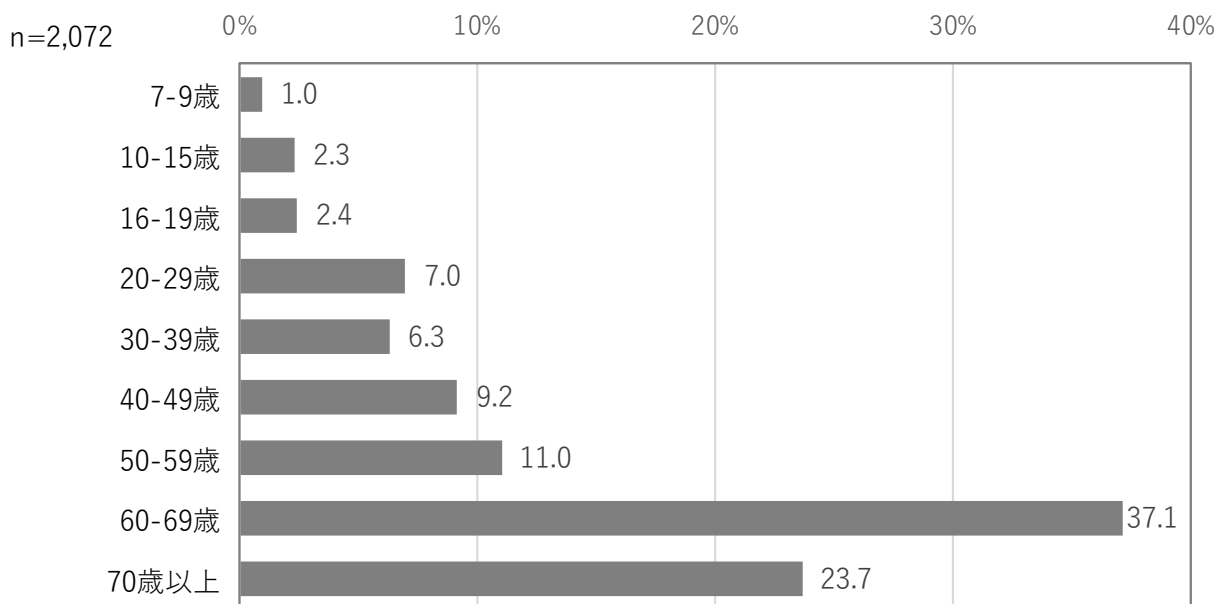
(5) 障害児・者の年齢

障害児・者の年齢構成は「60～69歳」（37.1%）の割合が最も高く、次いで、「70歳以上」（23.7%）、「50～59歳」（11.0%）、「40～49歳」（9.2%）の割合が高い（図表 1-9）。

障害の種類別では、「知的障害」や「発達障害」は「20～29歳」の若年層が最も多く、「30～39歳」、「40～49歳」が続く。「肢体不自由（車椅子必要）」や「肢体不自由（車椅子不要）」は、「60～69歳」や「70歳以上」の年配層が多い。

全体の平均年齢は57.3歳であるが、「発達障害」は34.8歳、「知的障害」は37.6歳と若い。一方、「肢体不自由（車椅子不要）」の平均年齢は65.8歳と最も高く、「発達障害」、「知的障害」、「精神障害」以外の項目における平均年齢は全体を上回っている（図表 1-10）。

図表 1-9 障害児・者の年齢



図表 1-10 障害の種類、障害児・者の年齢

障害の種類	n	7	1	1	2	3	4	5	6	7	平均値 (歳)
		歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	
全体	2,072	20	48	50	145	131	190	228	769	490	57.3
	100.0	1.0	2.3	2.4	7.0	6.3	9.2	11.0	37.1	23.7	
肢体不自由（車椅子必要）	218	0.5	1.4	0.5	3.6	3.7	6.4	12.1	37.6	34.2	64.0
肢体不自由（車椅子不要）	592	0.0	0.6	0.6	1.7	2.0	4.5	7.7	50.5	32.5	65.8
視覚障害	128	0.5	0.9	1.0	4.4	4.0	12.3	12.0	48.4	16.5	58.9
聴覚障害	212	0.7	1.8	1.4	5.0	3.7	5.6	5.6	34.0	42.1	65.0
音声・言語・そしゃく機能障害	114	1.8	0.7	2.0	3.5	4.3	7.4	5.3	53.6	21.4	60.9
内部障害	381	0.2	0.5	0.6	1.7	2.0	4.9	8.6	54.6	26.8	63.9
知的障害	356	3.9	9.9	9.5	22.4	14.4	12.4	8.9	9.1	9.5	37.6
発達障害	202	3.7	9.0	9.1	24.0	17.3	16.4	9.3	8.4	2.8	34.8
精神障害	436	0.0	0.5	1.5	11.1	14.4	19.4	22.2	20.2	10.7	50.0
その他	26	2.2	10.0	0.0	5.7	9.4	8.3	6.3	56.5	1.7	50.1

(%)

（6）障害児・者の障害福祉サービス利用の状況

日常的に利用されている障害福祉サービスの種類について、「障害福祉サービスは利用していない」（64.5％）の割合が最も高く、何らかの障害福祉サービスを利用している方は54.3％となる。（複数回答）

障害福祉サービスを利用している方では、「通所系支援（放課後等デイサービス、児童発達支援、生活介護）」（12.3％）の割合が高く、次いで「訪問系支援（居宅介護、重度訪問介護、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、重度障害者等包括支援）」（10.8％）、「訓練・就労支援（就労継続支援（A型・B型）、就労移行支援、就労定着支援、自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）」（9.5％）の割合が高い（図表1-11）。

障害の種類別では、「肢体不自由（車椅子必要）」は、「訪問系支援（居宅介護、重度訪問介護、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、重度障害者等包括支援）」、「入所系支援（短期入所、療養介護、施設入所支援、障害児入所支援）」、「通所系支援（放課後等デイサービス、児童発達支援、生活介護）」の割合が高く、日常的に障害福祉サービスを利用している傾向が高い。

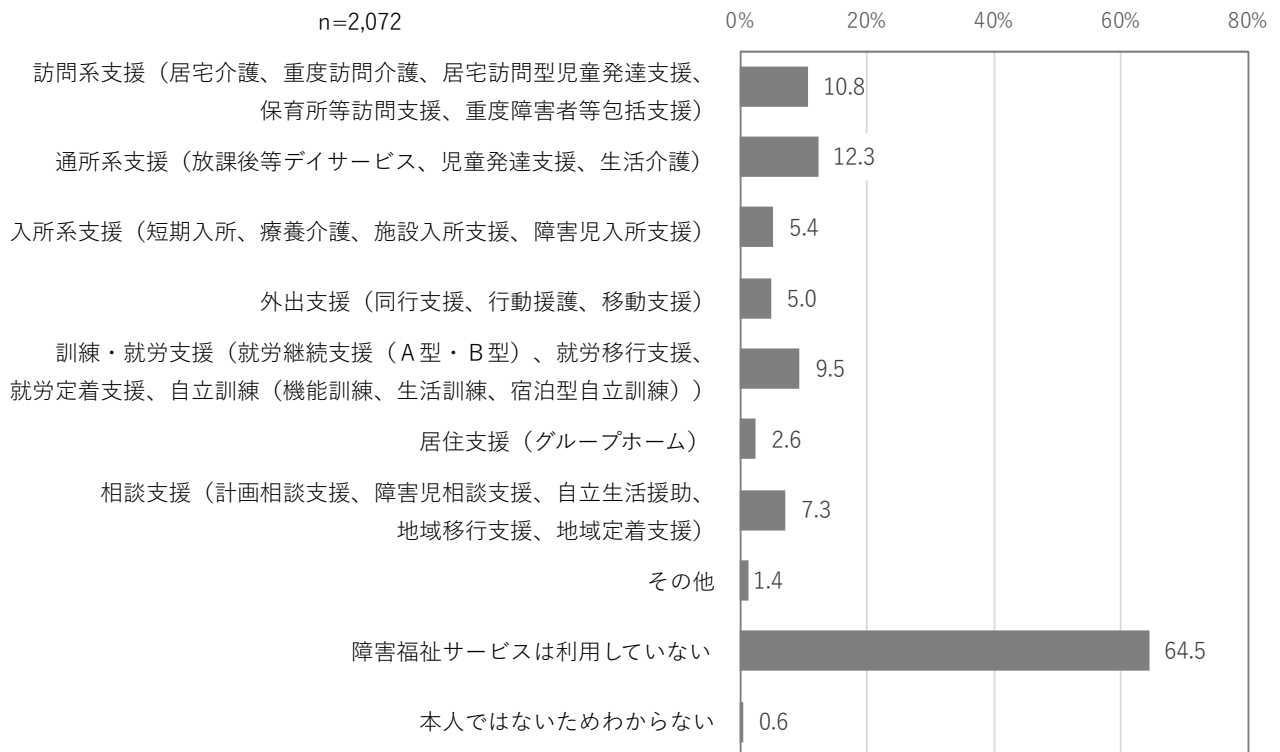
「肢体不自由（車椅子不要）」は、「通所系支援（放課後等デイサービス、児童発達支援、生活介護）」や「訪問系支援（居宅介護、重度訪問介護、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、重度障害者等包括支援）」の割合が高いが、「障害福祉サービスは利用していない」（68.9％）の割合が最も高い。

「内部障害」は、「障害福祉サービスは利用していない」（83.7％）の割合が最も高い。

「知的障害」は、「通所系支援（放課後等デイサービス、児童発達支援、生活介護）」の割合が高いが、「障害福祉サービスは利用していない」（36.7％）の割合が最も高い。

「発達障害」と「精神障害」はともに、「訓練・就労支援（就労継続支援（A型・B型）、就労移行支援、就労定着支援、自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）」の割合が高いが、「障害福祉サービスは利用していない」の割合が最も高い（図表1-12）。

図表 1-11 障害児・者の障害福祉サービス利用の状況



図表 1-12 障害の種類、障害児・者の障害福祉サービス利用の状況

障害の種類	n	訪問系支援（居宅介護、重度訪問介護、児童発達支援、保育所等包括支援）	通所系支援（放課後等デイサービス、生活介護）	入所系支援（短期入所、療養介護、施設入所支援）	外出支援（同行支援、行動援護、移動支援）	訓練・就労支援（就労継続支援（A型・B型）、就労移行支援、就労定着支援、自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練））	居住支援（グループホーム）	相談支援（計画相談支援、自立生活援助、地域移行支援、地域定着支援）	その他	障害福祉サービスは利用していない	本人ではないためわからない
全体	2,072	223	256	111	104	197	54	151	29	1,336	12
	100.0	10.8	12.3	5.4	5.0	9.5	2.6	7.3	1.4	64.5	0.6
肢体不自由（車椅子必要）	218	39.7	31.2	33.0	18.5	14.6	11.4	17.8	0.3	24.7	0.5
肢体不自由（車椅子不要）	592	9.7	16.1	2.5	2.6	7.1	1.1	2.9	2.6	68.9	1.1
視覚障害	128	26.2	13.2	8.5	24.0	13.2	7.2	12.2	0.2	52.5	0.0
聴覚障害	212	19.8	14.9	16.2	13.7	8.4	5.8	8.3	0.0	63.1	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	114	18.4	33.4	15.0	12.6	14.1	18.3	14.6	5.9	46.1	0.0
内部障害	381	8.3	6.7	3.6	5.4	4.0	2.0	2.3	0.2	83.7	0.0
知的障害	356	11.5	22.5	10.4	8.4	21.6	8.4	16.7	1.6	36.7	1.2
発達障害	202	10.3	20.8	6.5	9.2	22.9	6.1	21.7	2.1	46.4	0.8
精神障害	436	11.5	6.9	4.5	4.5	16.4	4.0	14.7	2.4	59.7	0.1
その他	26	9.8	13.9	6.7	6.8	3.8	2.8	13.1	0.2	73.2	0.0

(%)

2. 文化芸術の直接鑑賞の実施状況

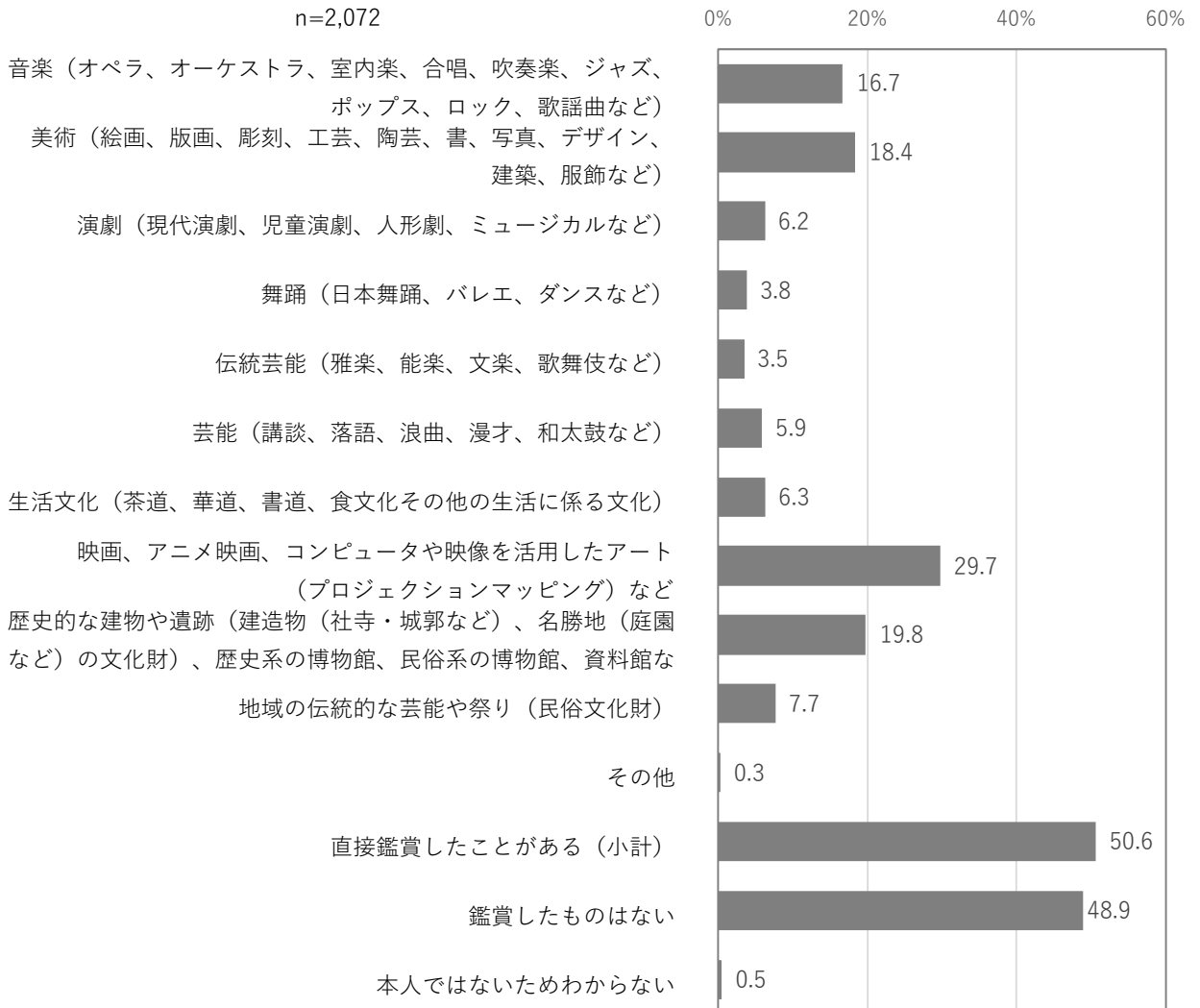
(1) 文化芸術を直接鑑賞した割合とそのジャンル

文化芸術の直接鑑賞*の有無について、約半数以上の方が「直接鑑賞したことがある」(50.6%)と回答しており、「鑑賞したものはない」方は48.9%となる。ジャンル別では、「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など」(29.7%)、「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」(19.8%)、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）」(18.4%)、「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」(16.7%)を直接鑑賞した割合が高い（図表 2-1）。

障害の種類別では、「肢体不自由（車椅子必要）」、「肢体不自由（車椅子不要）」、「視覚障害」、「聴覚障害」、「内部障害」、「知的障害」、「発達障害」、「精神障害」、「その他」で、「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など」の割合が最も高い。「音声・言語・そしゃく機能障害」は、「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」が最も高い（図表 2-2）。

直接鑑賞*:実際に会場・施設を訪れたりして面前で鑑賞することを指す。

図表 2-1 2024年に文化芸術を直接鑑賞した割合とそのジャンル



図表 2-2 障害の種類、2024年に文化芸術を直接鑑賞した割合とそのジャンル

障害の種類	n	音楽（オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化）	映画、アニメ、プロジェクションマッピングなど	博物館、民俗系の博物館、資料館など	歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	その他	直接鑑賞したことがある（小計）	鑑賞したものはない	本人ではないためわからない
全体	2,072	346	381	129	79	72	123	130	616	410	159	6	1,048	1,013	10	
	100.0	16.7	18.4	6.2	3.8	3.5	5.9	6.3	29.7	19.8	7.7	0.3	50.6	48.9	0.5	
肢体不自由（車椅子必要）	218	24.5	22.8	13.7	7.1	6.6	7.6	13.0	24.5	20.7	10.7	0.2	56.9	42.9	0.2	
肢体不自由（車椅子不要）	592	17.2	17.4	6.0	4.4	2.3	6.8	6.8	29.1	22.3	11.6	0.0	48.3	51.4	0.3	
視覚障害	128	19.6	22.6	9.2	6.5	5.5	5.7	8.1	37.5	31.9	4.9	0.0	59.0	41.0	0.0	
聴覚障害	212	20.5	26.0	8.9	3.6	6.8	12.0	12.1	28.8	21.3	12.9	0.0	54.0	45.8	0.1	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	33.6	30.5	12.3	11.4	23.6	19.7	24.6	36.1	41.0	23.3	0.0	61.5	38.3	0.2	
内部障害	381	11.9	27.1	5.6	4.9	5.1	5.6	8.8	37.7	24.6	8.0	0.1	57.1	42.7	0.2	
知的障害	356	18.8	12.8	8.5	5.2	5.0	8.0	5.8	29.4	15.7	8.3	0.9	49.7	48.0	2.3	
発達障害	202	23.2	18.6	11.0	7.4	7.3	9.3	8.0	33.9	21.1	9.1	0.9	57.6	41.3	1.2	
精神障害	436	19.9	14.2	6.8	3.6	4.1	5.1	6.4	28.2	16.5	6.9	0.6	47.5	51.6	0.9	
その他	26	11.5	5.8	2.9	0.0	4.3	4.7	3.8	39.0	8.8	10.0	1.8	52.8	47.2	0.0	

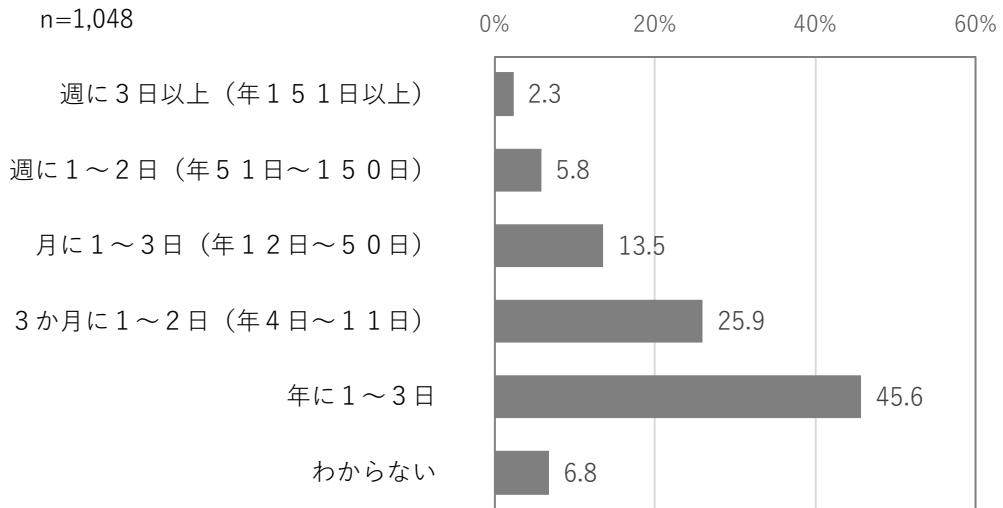
(%)

(2) 文化芸術を直接鑑賞した日数

2024年に文化芸術を直接鑑賞したと回答した人が、1年間に直接鑑賞した日数は「年に1～3日」(45.6%)が最も多く、次いで「3か月に1～2日(年4日～11日)」(25.9%)であった。過半数以上は「3か月に1～2日(年4日～11日)」以下である(図表2-3)。

障害の種類別では、「内部障害」の「3か月に1～2日(年4日～11日)」を除き、いずれの種類においても「年に1～3日」が最も高く、中でも「肢体不自由(車椅子不要)」や「音声・言語・そしゃく機能障害」、「発達障害」、「精神障害」では約5割を占める(図表2-4)。

図表 2-3 2024年に文化芸術を直接鑑賞した日数



※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞した人ベース

図表 2-4 障害の種類、2024年に文化芸術を直接鑑賞した日数

障害の種類	n	（週 年に 1 3 5 日 1 以 日 上 以 上 ）	（週 年に 5 1 1 日 1 日 1 日 5 0 日 ）	（月 年に 1 1 2 日 日 3 日 5 0 日 ）	（3 年か 4 月 日 に 日 1 日 2 ）	年 に 日 3 日	わ か ら な い
全体	1,048	24	61	142	272	479	71
	100.0	2.3	5.8	13.5	25.9	45.6	6.8
肢体不自由（車椅子必要）	124	6.3	9.0	27.8	18.9	29.0	9.0
肢体不自由（車椅子不要）	286	2.1	3.6	12.0	21.8	51.8	8.6
視覚障害	76	9.7	6.3	16.5	25.7	32.4	9.4
聴覚障害	115	4.4	16.3	17.3	18.0	35.6	8.3
音声・言語・そしゃく機能障害	70	9.2	5.4	13.5	23.1	47.6	1.2
内部障害	218	2.5	1.6	16.9	37.8	37.7	3.5
知的障害	177	7.8	9.8	12.9	15.9	42.9	10.8
発達障害	116	6.9	8.3	11.2	19.4	48.0	6.3
精神障害	207	4.5	4.7	11.3	20.6	49.7	9.2
その他	14	0.0	0.0	7.2	12.7	76.7	3.5

※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞した人ベース

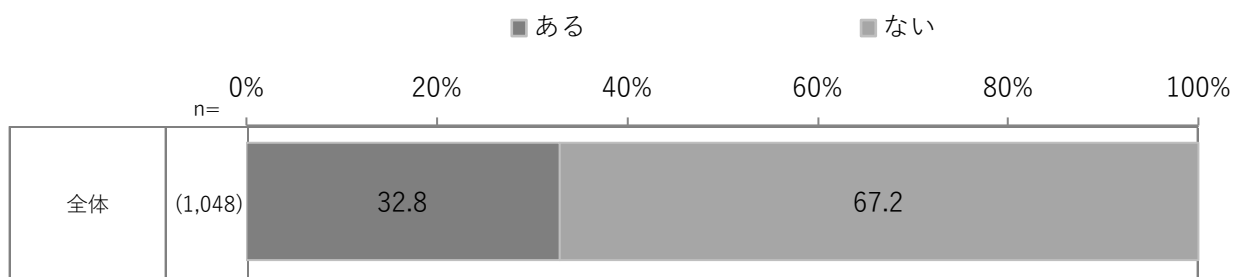
(%)

(3) 合理的配慮

文化芸術活動を直接鑑賞するにあたり、文化施設等に対して「合理的配慮」を求めた経験が「ある」と回答した人は32.8%で、「ない」(67.2%)の約半数にとどまる(図表2-5)。

障害の種類別で「合理的配慮」を求めた経験が「ある」割合をみると、「肢体不自由(車椅子必要)」が7割強(71.4%)と最も高い。次いで「音声・言語・そしゃく機能障害」、「聴覚障害」、「知的障害」が5割前後、「視覚障害」は4割半ば、「発達障害」、「精神障害」、「内部障害」が約3~4割程であった。「肢体不自由(車椅子不要)」は2割強で、「その他」を除き、障害の種類別では最も低い(図表2-6)。

図表 2-5 合理的配慮を求めた経験



※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞した人ベース

図表 2-6 障害の種類、合理的配慮を求めた経験

障害の種類	n	ある	ない
		(%)	(%)
全体	1,048	344	704
	100.0	32.8	67.2
肢体不自由(車椅子必要)	124	71.4	28.6
肢体不自由(車椅子不要)	286	22.0	78.0
視覚障害	76	45.5	54.5
聴覚障害	115	50.0	50.0
音声・言語・そしゃく機能障害	70	51.2	48.8
内部障害	218	28.9	71.1
知的障害	177	47.4	52.6
発達障害	116	38.1	61.9
精神障害	207	34.6	65.4
その他	14	14.5	85.5

※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞した人ベース

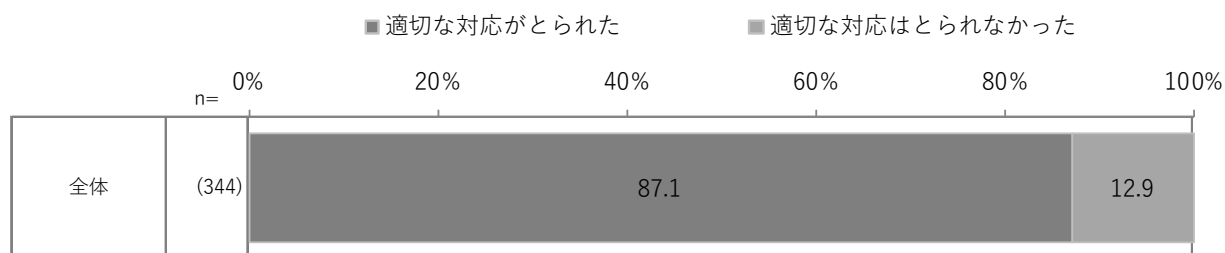
(%)

(4) 適切な合理的配慮の経験

文化芸術活動を直接鑑賞するにあたり、文化施設等に対して「適切な対応がとられた」と回答した人は、9割弱（87.1%）と高い（図表2-7）。

障害の種類別では、「肢体不自由（車椅子必要）」（95.7%）が最も高く、次いで「内部障害」（94.0%）「音声・言語・そしゃく機能障害」（93.3%）が高い（図表2-8）。

図表 2-7 適切な合理的配慮の経験



図表 2-8 障害の種類、適切な合理的配慮の経験

障害の種類	n	と適切な対応が	と適切な対応は
		と適切な対応が	と適切な対応は
全体	344	300	44
	100.0	87.1	12.9
肢体不自由（車椅子必要）	89	95.7	4.3
肢体不自由（車椅子不要）	63	86.1	13.9
視覚障害	34	78.5	21.5
聴覚障害	57	91.9	8.1
音声・言語・そしゃく機能障害	36	93.3	6.7
内部障害	63	94.0	6.0
知的障害	84	86.2	13.8
発達障害	44	85.4	14.6
精神障害	72	82.8	17.2
その他	2	100.0	0.0

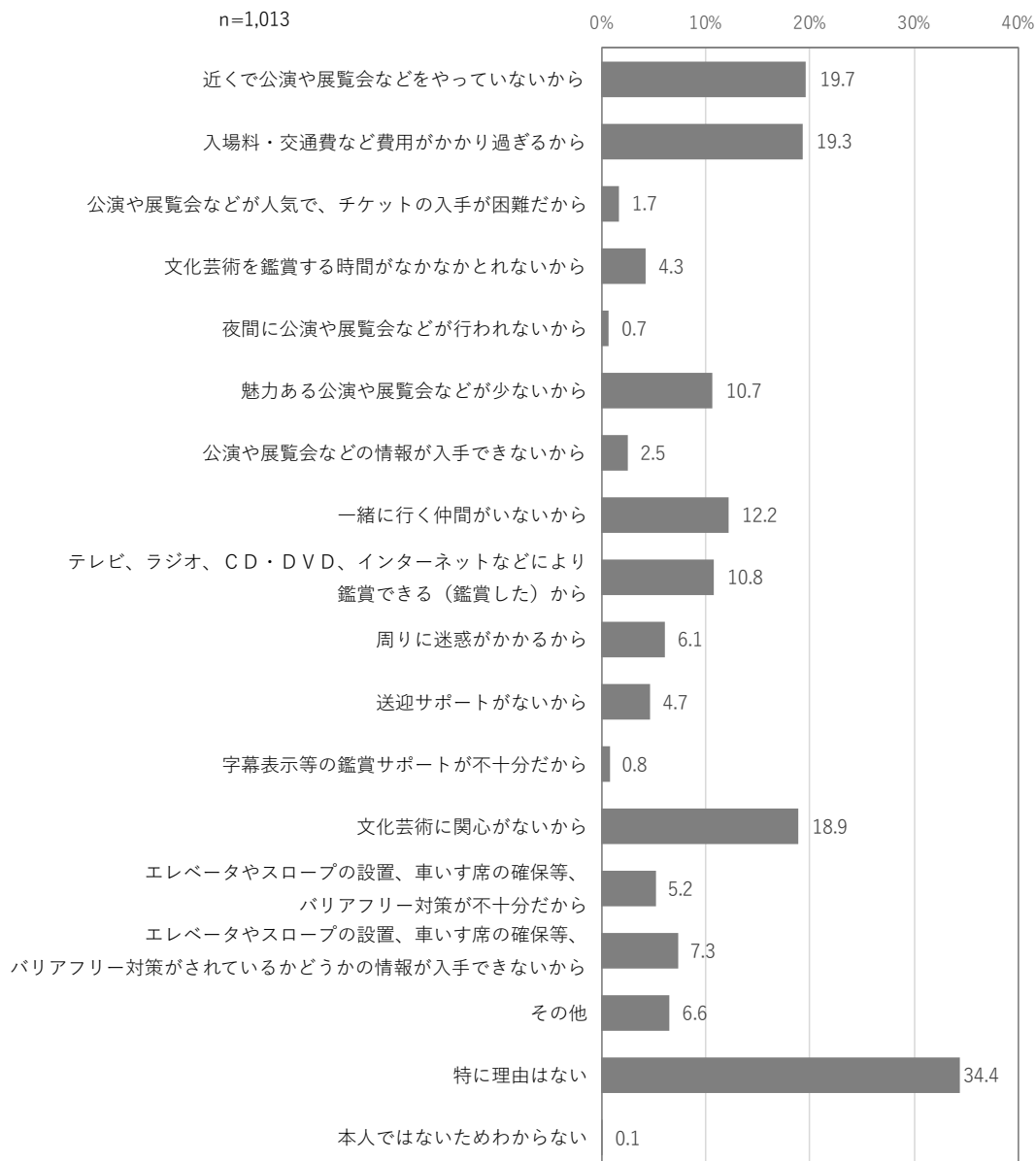
※文化芸術活動を直接鑑賞するにあたり合理的配慮を求めた人ベース (%)

(5) 文化芸術を鑑賞しなかった理由

文化芸術を直接鑑賞しなかった理由として多いのは「特に理由はない」(34.4%)で3割以上を占める。それ以外の直接鑑賞を阻害した理由としては、「近くで公演や展覧会などをやっていないから」(19.7%)、「入場料・交通費など費用がかかりすぎるから」(19.3%)、「文化芸術に関心がないから」(18.9%)、「一緒に行く仲間がいないから」(12.2%)、「テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる(鑑賞した)から」(10.8%)、の割合が高く、実施場所や費用といった物理的・経済的要因に加え、一緒に行く仲間がいないといった社会的要因も、直接鑑賞を妨げる理由となっている(図表2-9)。

障害の種類別では、「肢体不自由(車椅子必要)」は「エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策が不十分だから」の割合が最も高く、環境が整っていないことがうかがえる。「肢体不自由(車椅子不要)」、「視覚障害」、「発達障害」は「近くで公演や展覧会などをやっていないから」、「内部障害」、「精神障害」は「入場料・交通費など費用がかかりすぎるから」の割合が高く、「特に理由はない」と合わせると過半数を超える回答となっている(図表2-10)。

図表 2-9 2024年に文化芸術を鑑賞しなかった理由



※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞しなかった人ベース

図表 2-10 障害の種類、2024年に文化芸術を鑑賞しなかった理由

障害の種類		近くで公演や展覧会などをやっていないから	入場料・交通費など費用がかかり過ぎるから	困難だから	公演や展覧会などが人気で、チケットの入手が	ら	文化芸術を鑑賞する時間がなかなかとれないから	夜間に公演や展覧会などが行われなから	魅力ある公演や展覧会などが少ないから	公演や展覧会などの情報が入りできないから	一緒に行く仲間がいないから	テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる（鑑賞した）から	周りに迷惑がかかるから	送迎サポートがないから	字幕表示等の鑑賞サポートが不十分だから	文化芸術に関心がないから	等、バリアフリー対策が不十分だから	エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保、バリアフリー対策がされているかどうかの情報が入手できないから	その他	特に理由はない	本人ではないためわからない
	n																				
全体	1,013	199	196	18	43	7	108	26	123	109	62	47	8	192	52	74	66	348	1		
	100.0	19.7	19.3	1.7	4.3	0.7	10.7	2.5	12.2	10.8	6.1	4.7	0.8	18.9	5.2	7.3	6.6	34.4	0.1		
肢体不自由（車椅子必要）	93	22.9	8.0	0.7	8.8	0.1	0.6	1.8	12.4	24.1	13.8	11.5	0.0	4.3	31.3	22.9	16.7	25.0	0.0		
肢体不自由（車椅子不要）	304	25.5	18.8	2.1	3.0	0.2	9.6	0.5	8.5	9.7	9.0	7.3	0.0	18.8	6.7	13.9	6.3	38.7	0.0		
視覚障害	53	44.1	19.1	1.5	0.0	0.3	4.8	2.1	12.8	18.6	12.5	0.8	0.0	32.2	0.0	26.8	12.2	6.3	0.0		
聴覚障害	97	14.8	3.9	1.7	0.3	1.0	14.1	7.0	22.0	1.4	15.3	7.1	6.9	21.9	7.2	21.1	1.3	27.3	0.0		
音声・言語・そしゃく機能障害	44	1.2	5.5	1.8	0.6	0.3	1.8	0.0	2.4	0.0	3.2	1.2	0.0	64.0	1.2	4.4	3.7	19.6	2.0		
内部障害	163	20.6	24.4	0.9	3.1	0.9	17.5	0.8	9.9	10.2	4.5	0.8	0.0	18.2	0.2	4.8	7.6	36.8	0.0		
知的障害	171	13.6	16.3	2.1	4.3	2.0	7.8	2.9	11.8	6.9	10.3	4.8	0.5	18.1	0.6	1.8	3.6	44.2	0.0		
発達障害	83	22.2	18.3	2.1	6.5	2.6	8.1	5.2	21.4	15.3	7.1	2.7	0.0	18.8	1.3	1.5	11.0	31.5	1.1		
精神障害	225	21.3	29.1	3.1	7.8	1.8	10.4	4.5	13.1	13.9	6.6	4.9	0.0	17.9	4.4	7.5	6.9	27.4	0.0		
その他	12	8.8	13.4	5.8	0.0	0.0	6.2	58.0	60.1	6.0	3.2	6.2	0.0	0.0	6.2	2.1	3.5	13.1	0.0		

※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞しなかった人ベース

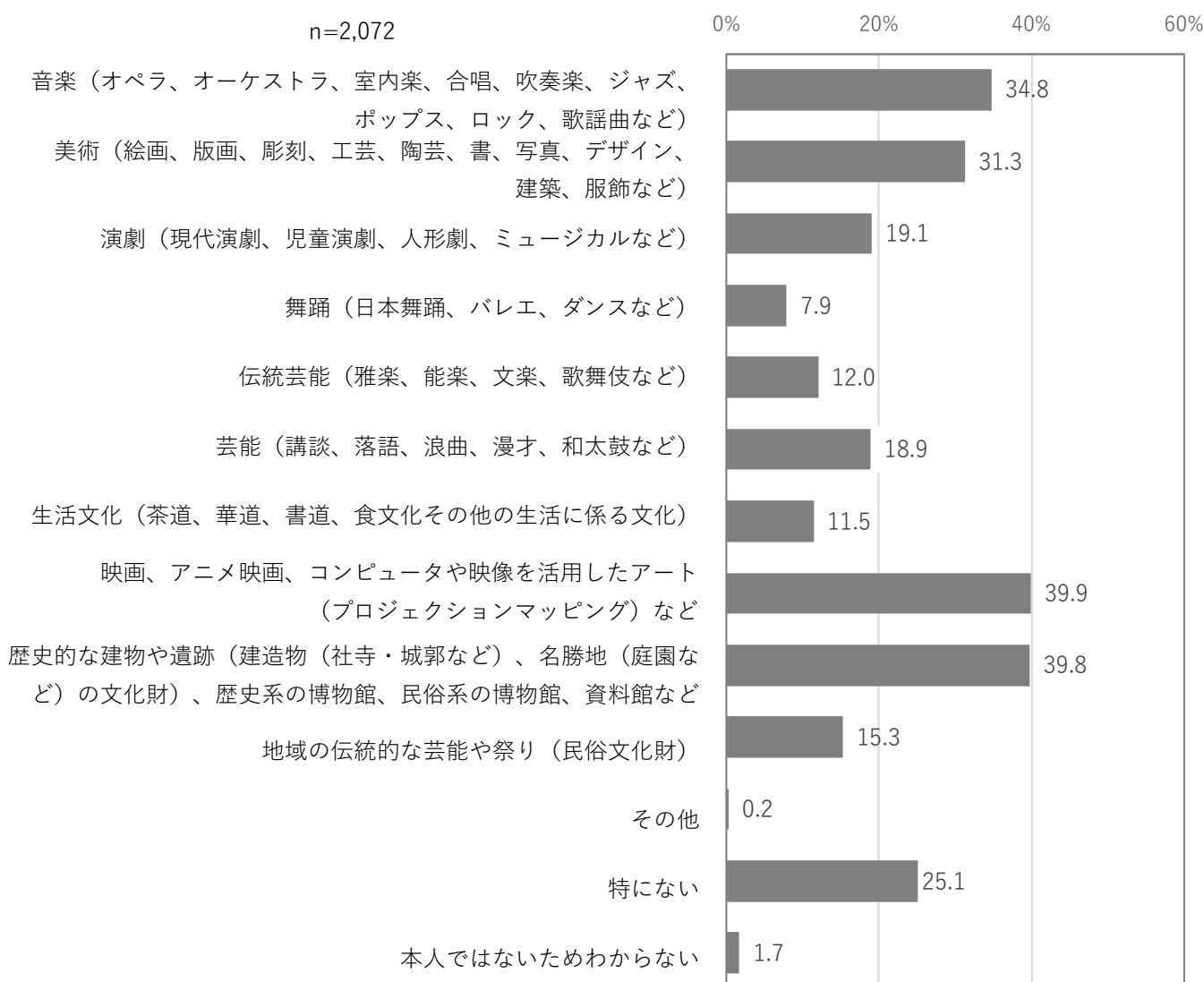
(%)

(6) 直接鑑賞したい文化芸術

今後、直接鑑賞してみたい文化芸術は、「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など」（39.9%）、「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」（39.8%）が約4割と高く、次いで「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」（34.8%）、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）」（31.3%）の割合が高い。「特にない」（25.1%）は3割未満にとどまった（図表2-11）。

障害の種類別では、全体で割合が高いジャンル「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」（39.8%）は「肢体不自由（車椅子必要）」、「聴覚障害」、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「内部障害」での割合が高い。「視覚障害」や「精神障害」は「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」の割合が高く、映画や音楽系の関心が高い（図表2-12）。

図表 2-11 今後直接鑑賞したい文化芸術



図表 2-12 障害の種類、今後直接鑑賞したい文化芸術

障害の種類	n	音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など	博物館、資料館など	歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	その他	特になし	本人ではないためわからない
		全体	2,072	721	648	395	163	249	392	237	827	824	318	4	521
	100.0	34.8	31.3	19.1	7.9	12.0	18.9	11.5	39.9	39.8	15.3	0.2	25.1	1.7	
肢体不自由（車椅子必要）	218	41.5	40.7	26.9	14.7	18.1	16.4	17.6	35.4	47.0	21.1	0.0	12.0	3.6	
肢体不自由（車椅子不要）	592	35.6	28.8	17.2	4.3	6.7	23.5	7.5	34.3	38.4	16.8	0.1	27.1	0.4	
視覚障害	128	45.7	41.2	27.7	13.0	9.6	21.5	14.2	44.2	45.1	14.3	0.6	20.7	0.6	
聴覚障害	212	35.6	40.2	18.1	11.7	15.5	21.5	18.6	35.2	55.5	27.2	0.1	22.0	0.7	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	42.0	40.1	27.6	25.9	25.8	39.0	30.3	36.5	49.5	30.6	0.0	26.2	1.9	
内部障害	381	28.0	35.7	22.8	6.6	18.6	16.2	11.7	49.0	49.5	17.3	0.0	19.7	2.1	
知的障害	356	29.5	19.5	16.4	9.1	10.4	13.6	11.6	38.0	24.2	13.4	0.4	30.3	5.6	
発達障害	202	39.5	32.6	24.5	13.1	14.9	17.6	13.9	49.5	33.5	13.9	0.7	26.5	2.5	
精神障害	436	42.5	31.0	22.2	11.2	14.9	21.5	15.4	42.0	37.1	15.6	0.5	27.8	0.6	
その他	26	49.5	47.1	13.5	13.4	32.7	52.2	35.1	78.3	49.9	43.4	0.0	11.5	0.0	

(%)

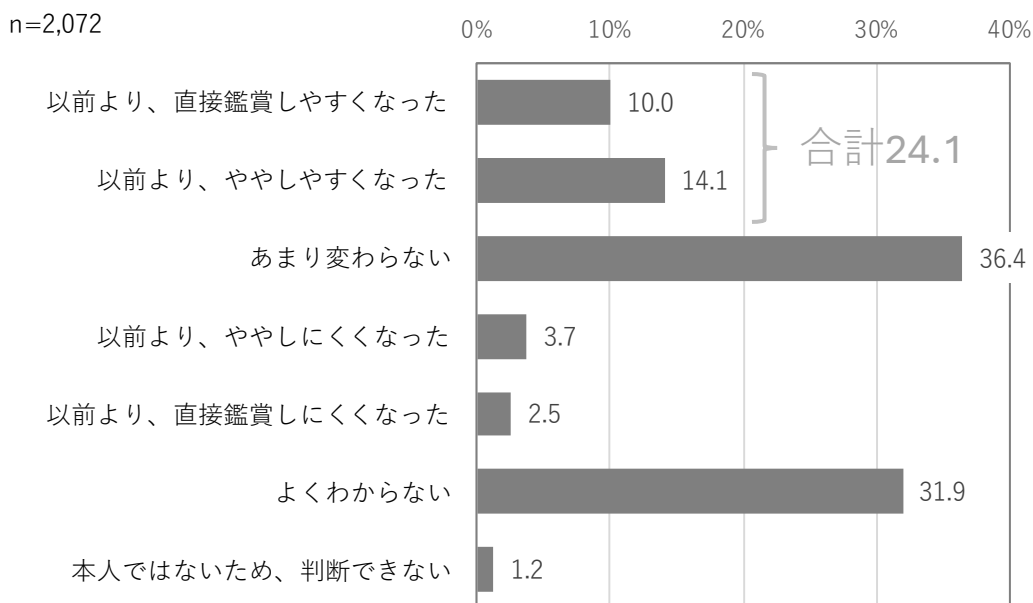
(7) 4年前(2021年頃)と比較した、直接鑑賞に係る環境の変化

4年前(2021年頃)と比較して、障害のある方が文化芸術を直接鑑賞しやすい環境が整ってきたと感じるかについて、「あまり変わらない」(36.4%)の回答が最も多く、次いで「よくわからない」(31.9%)、「以前より、やややすくなった」(14.1%)、「以前より、直接鑑賞しやすくなった」(10.0%)、「以前より、ややしくなくなった」(3.7%)、「以前より、直接鑑賞しにくくなった」(2.5%)、「本人ではないため、判断できない」(1.2%)となっている(図表2-13)。

障害の種類別では、「聴覚障害」「音声・言語・そしゃく機能障害」「精神障害」を除くほぼ全ての障害において「あまり変わらない」の回答が3~4割と最も多く、「やややすくなった」と回答した割合が高いのは「聴覚障害」や「視覚障害」、「音声・言語・そしゃく機能障害」であった。

一方で「以前より、直接鑑賞しにくくなった」と回答した割合は全体的に低いものの「発達障害」や「視覚障害」、「肢体不自由(車椅子必要)」などがやや高め、直接鑑賞しやすい環境が未だに改善されていないと感じている回答が多い(図表2-14)。

図表 2-13 4年前(2021年頃)と比較した、直接鑑賞に係る環境の変化



図表 2-14 障害の種類、4年前（2021年頃）と比較した、直接鑑賞に係る環境の変化

障害の種類	n	す	な	あ	な	く	よ	で
		く 前 な り た	な 前 り 、 や し や す く	ま り 変 わ ら な い	な 前 り 、 や し に く く	く 前 な り 、 直 接 鑑 賞 し に	く わ か ら な い	本 人 で は な い た め 、 判 断
全体	2,072	208	292	755	77	53	662	26
	100.0	10.0	14.1	36.4	3.7	2.5	31.9	1.2
肢体不自由（車椅子必要）	218	19.1	12.8	28.7	6.4	5.0	27.8	0.2
肢体不自由（車椅子不要）	592	5.8	11.4	42.2	4.7	1.5	32.9	1.5
視覚障害	128	10.1	19.9	30.2	6.1	5.2	28.0	0.6
聴覚障害	212	20.4	25.8	25.2	3.5	1.3	23.8	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	114	14.6	19.6	10.1	1.2	3.3	49.8	1.4
内部障害	381	9.2	13.2	45.1	5.3	0.2	27.0	0.1
知的障害	356	13.1	15.2	30.6	3.6	3.8	29.1	4.6
発達障害	202	14.7	15.8	33.6	3.7	5.6	25.3	1.3
精神障害	436	11.3	14.8	33.3	2.4	4.2	33.5	0.6
その他	26	2.5	10.5	39.2	0.0	8.1	36.4	3.3

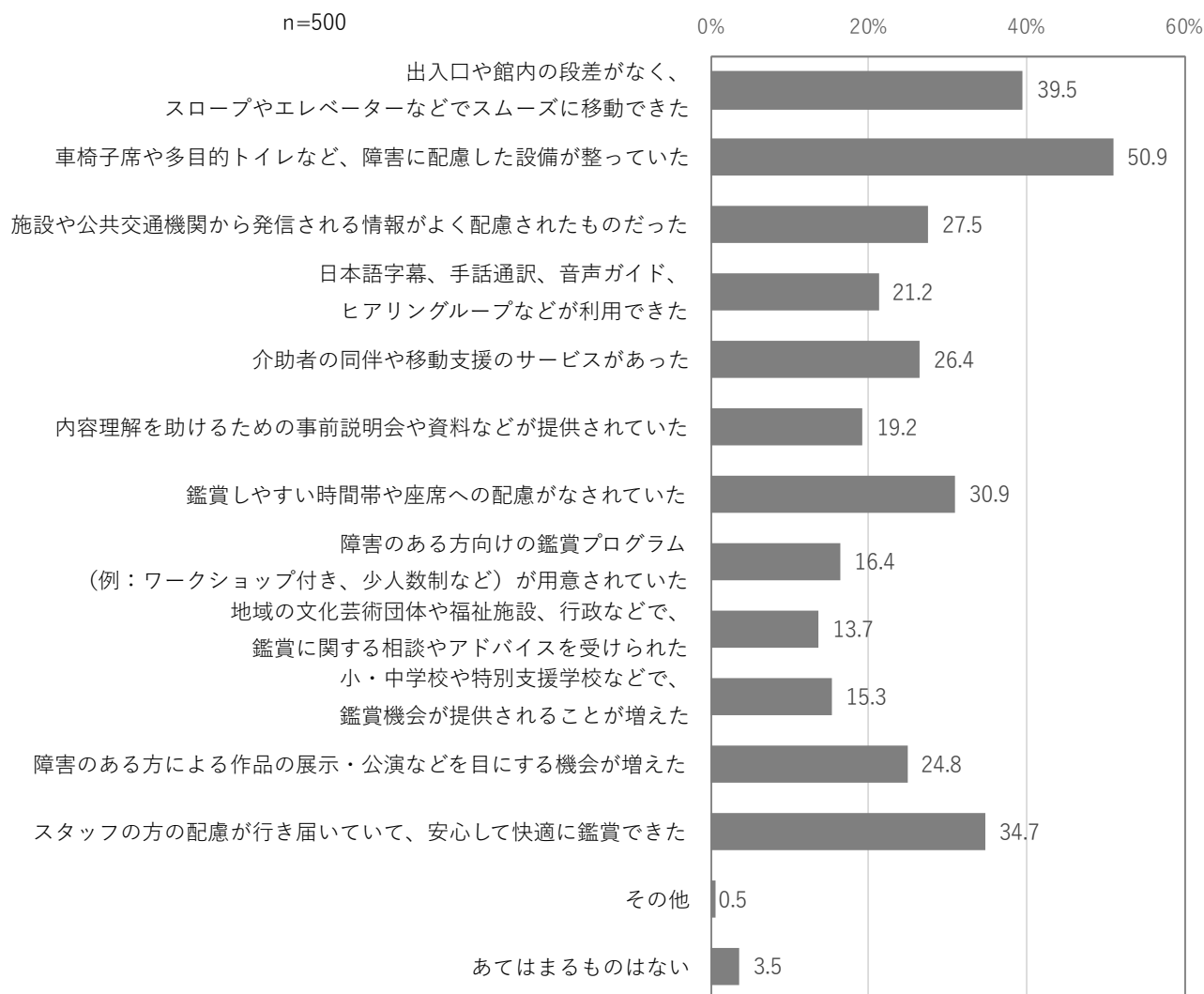
(%)

(8) 文化芸術の直接鑑賞経験の整備状況で整ってきたと感じる理由

文化芸術の直接鑑賞経験の整備状況で、整ってきたと感じる理由の割合として多いのは「車椅子席や多目的トイレなど、障害に配慮した設備が整っていた」(50.9%)で全体の半数を占める。それ以外では、「出入口や館内の段差がなく、スロープやエレベーターなどでスムーズに移動できた」(39.5%)、「スタッフの方の配慮が行き届いていて、安心して快適に鑑賞できた」(34.7%)「鑑賞しやすい時間帯や座席への配慮がなされていた」(30.9%)の割合が高い(図表2-15)。

障害の種類別では、全ての障害において「車椅子席や多目的トイレなど、障害に配慮した設備が整っていた」が約4～7割で高い。「肢体不自由(車椅子必要)」は「スタッフの方の配慮が行き届いていて、安心して快適に鑑賞できた」の割合が最も高く、「内部障害」は「出入口や館内の段差がなく、スロープやエレベーターなどでスムーズに移動できた」の割合が最も高くなっている(図表2-16)。

図表 2-15 文化芸術の直接鑑賞経験の整備状況で整ってきたと感じる理由



※以前より、直接鑑賞しやすくなった・やややすくなった人ベース

図表 2-16 障害の種類、文化芸術の直接鑑賞経験の整備状況で整ってきたと感じるもの

障害の種類	n	出入口や館内の段差がなく、スロープやエレベーターなどスムーズに移動できた	車椅子席や多目的トイレなど、障害に配慮した設備が整っていた	施設や公共交通機関から発信される情報がよく配慮されたものだった	日本語字幕、手話通訳、音声ガイド、ヒアリングループなどが利用できた	介助者の同伴や移動支援のサービスがあった	内容理解を助けるための事前説明会や資料などが提供されていた	鑑賞しやすい時間帯や座席への配慮がなされていた	シヨップ付き、少人数制など）が用意されていた	障害のある方向けの鑑賞プログラム（例：ワークブックなど）が用意されていた	賞に関する相談やアドバイスを受けた	地域の文化芸術団体や福祉施設、行政などで、鑑賞機会が提供された	小・中学校や特別支援学校などで、鑑賞機会が提	障害のある方による作品の展示・公演などを目にする機会が増えた	快適に鑑賞できた	スタッフの方の配慮が行き届いていて、安心して鑑賞できた	その他	あてはまるものはない
全体	500	198	255	138	106	132	96	155	82	68	77	124	174	3	18			
	100.0	39.5	50.9	27.5	21.2	26.4	19.2	30.9	16.4	13.7	15.3	24.8	34.7	0.5	3.5			
肢体不自由（車椅子必要）	70	50.4	54.3	47.3	19.1	47.2	30.8	46.7	20.9	32.7	27.9	37.1	55.1	0.0	0.4			
肢体不自由（車椅子不要）	102	34.5	67.9	37.7	10.8	32.4	20.8	26.5	16.3	15.5	13.8	16.9	40.9	0.0	0.0			
視覚障害	38	50.9	67.9	27.7	33.3	25.7	25.3	42.6	16.7	23.4	24.0	54.1	28.9	1.9	0.0			
聴覚障害	98	49.0	57.6	27.9	31.7	28.8	29.6	37.2	21.8	15.5	20.8	33.1	43.4	0.0	0.3			
音声・言語・そしゃく機能障害	39	47.4	72.5	38.4	30.8	34.6	32.9	40.6	35.4	38.6	32.0	37.9	50.7	0.0	4.2			
内部障害	85	53.9	49.0	22.5	24.5	38.2	13.6	46.3	5.2	8.0	8.9	14.3	37.4	0.0	2.9			
知的障害	101	31.8	36.0	26.7	25.0	25.7	20.7	27.2	24.5	26.7	25.4	26.0	30.0	0.4	6.2			
発達障害	62	30.7	42.0	20.7	27.4	28.7	20.6	29.5	27.2	20.3	25.7	32.8	40.4	2.3	6.5			
精神障害	114	40.1	51.1	32.1	27.4	23.2	23.9	33.3	25.9	19.4	17.1	33.4	36.9	1.1	6.7			
その他	3	35.3	77.5	20.9	21.7	21.7	0.0	63.8	21.7	21.7	0.0	43.8	0.0	0.0	0.0			

※以前より、直接鑑賞しやすくなった・やしやすくなった人ベース

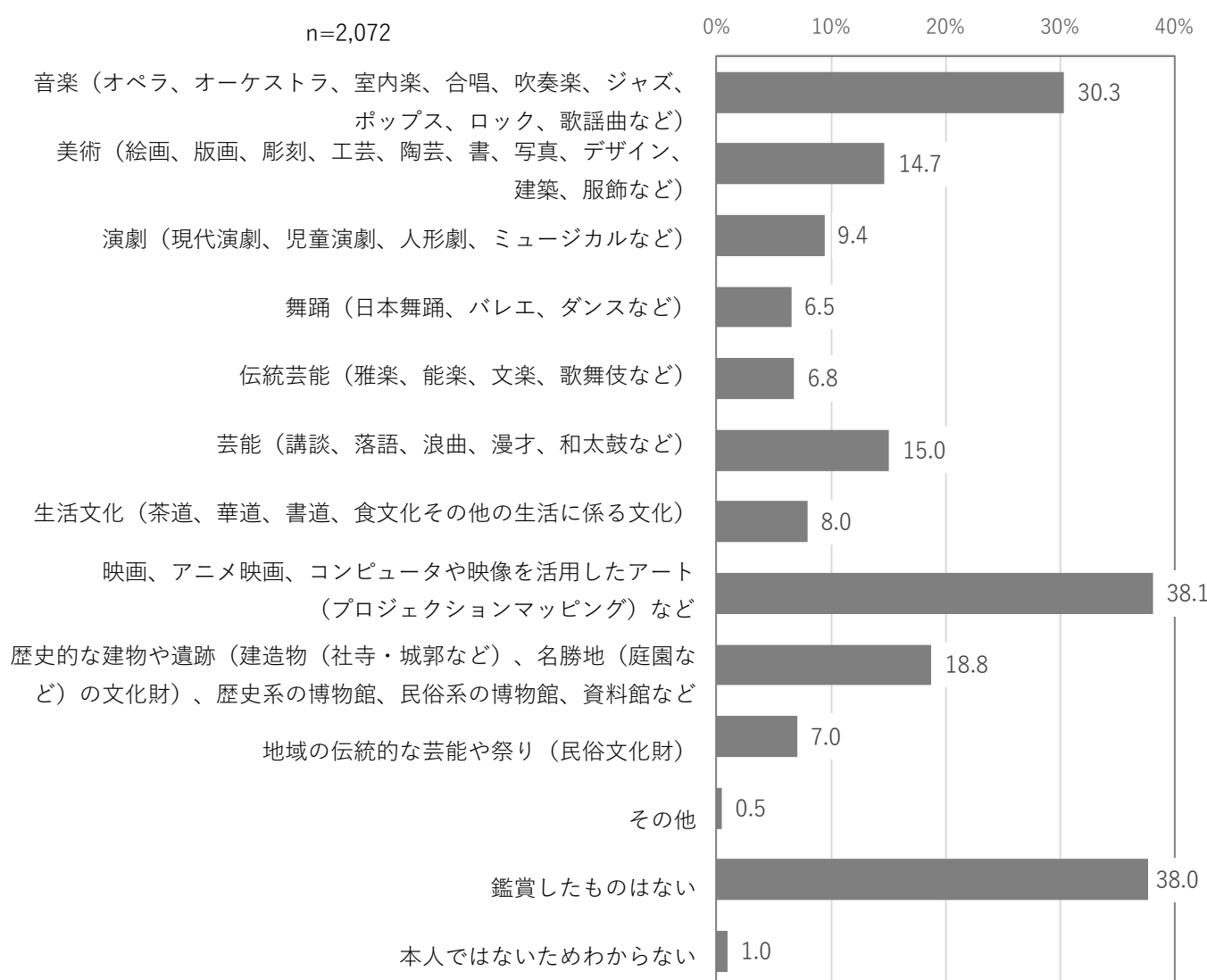
(%)

（9）2024年に直接鑑賞以外の方法で鑑賞した文化芸術の割合とそのジャンル

文化芸術を直接鑑賞以外の方法（テレビ、ラジオ、CD、DVD、インターネット配信、ストリーミングサービス等）で鑑賞した割合として多いのは「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など」（38.1%）、「鑑賞したものはない」（38.0%）とほぼ同率。次いで「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」（30.3%）の割合が高い（図表2-17）。

障害の種類別では、ほぼ全ての障害で「鑑賞したものはない」を除き「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など」の割合が最も高く、次いで「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」が高い傾向にあり、映画や音楽系のジャンルに偏りが見られる（図表2-18）。

図表 2-17 2024年に直接鑑賞以外の方法で鑑賞した文化芸術の割合とそのジャンル



図表 2-18 障害の種類、2024年に直接鑑賞以外の方法で鑑賞した文化芸術の割合とそのジャンル

障害の種類	n	音楽（オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、写真、デザイン、建築、服飾など）	演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など	博物館、資料館など	歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	その他	鑑賞したものはない	本人ではないためわからない
		全体	2,072	629	304	195	135	141	312	165	789	389	146	10	788
	100.0	30.3	14.7	9.4	6.5	6.8	15.0	8.0	38.1	18.8	7.0	0.5	38.0	1.0	
肢体不自由（車椅子必要）	218	35.6	26.0	20.9	19.2	11.8	21.3	15.3	43.3	16.6	13.7	0.2	24.4	0.4	
肢体不自由（車椅子不要）	592	31.4	13.9	6.1	3.6	4.2	18.4	5.8	39.1	18.6	3.9	0.0	34.4	0.4	
視覚障害	128	41.0	22.5	18.6	21.1	6.9	23.6	7.9	54.1	29.7	7.8	0.3	29.9	0.0	
聴覚障害	212	30.3	19.3	14.8	12.5	12.2	17.4	21.2	40.4	28.9	14.3	3.0	37.9	0.5	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	33.4	26.5	29.8	17.1	30.0	32.5	24.3	43.2	28.8	17.7	0.0	36.2	1.4	
内部障害	381	30.0	16.2	10.0	4.5	8.5	16.4	10.4	37.0	23.1	9.5	0.0	42.2	0.5	
知的障害	356	24.5	10.0	9.5	5.6	7.3	9.7	7.6	34.2	12.2	7.3	0.3	42.0	4.5	
発達障害	202	34.5	12.6	11.2	8.3	7.9	16.0	8.8	44.8	13.7	10.1	0.8	35.3	2.4	
精神障害	436	35.6	13.1	10.8	7.8	6.6	12.8	6.9	37.0	15.3	7.6	0.6	38.9	0.9	
その他	26	45.7	31.3	4.7	7.2	7.1	64.8	31.3	71.7	35.9	34.9	1.8	22.0	0.0	

(%)

3. 鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況

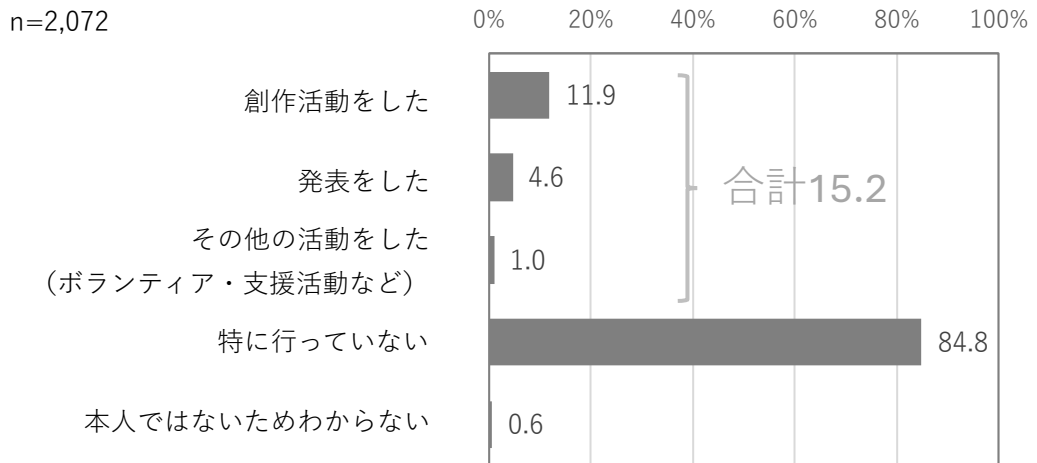
(1) 鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況の概要

鑑賞以外の文化芸術活動について、「創作活動をした」(11.9%)、「発表をした」(4.6%)、「その他の活動をした」(1.0%)と活動を行っている人は合計で15.2%*であった(図表3-1)。*「創作活動をした」「発表をした」「その他の活動をした」は複数回答可能なため、いずれか回答者

障害の種類別では、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「肢体不自由(車椅子必要)」は「創作活動をした」や「発表をした」人が多く、「聴覚障害」、「視覚障害」、「発達障害」は「創作活動をした」人が多い(図表3-2)。

※活動を行っている人の合計値(15.2%)は、「本人ではないためわからない」を除いた値

図表 3-1 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施・参加状況



図表 3-2 障害の種類、2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施・参加状況

障害の種類	n	創作活動をした	発表をした	援（その 活ポの 動ラ他 などン活 ）テ動 イをし アた ・支	特 に 行 っ て い ない	わ本 か人 らで は ない た め
全体	2,072	246	96	21	1,758	13
	100.0	11.9	4.6	1.0	84.8	0.6
肢体不自由（車椅子必要）	218	25.8	10.0	0.2	72.0	0.4
肢体不自由（車椅子不要）	592	6.0	4.3	2.4	89.7	0.2
視覚障害	128	25.6	8.4	0.7	72.0	0.1
聴覚障害	212	27.0	8.0	0.2	72.2	0.3
音声・言語・そしゃく機能障害	114	29.7	14.3	0.4	67.3	1.3
内部障害	381	8.4	4.4	0.3	88.7	0.1
知的障害	356	19.8	9.4	1.0	73.2	3.0
発達障害	202	22.2	9.0	1.3	74.0	1.3
精神障害	436	12.6	6.9	1.2	84.2	0.3
その他	26	5.7	0.0	4.7	89.6	0.0

(%)

(2) 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況

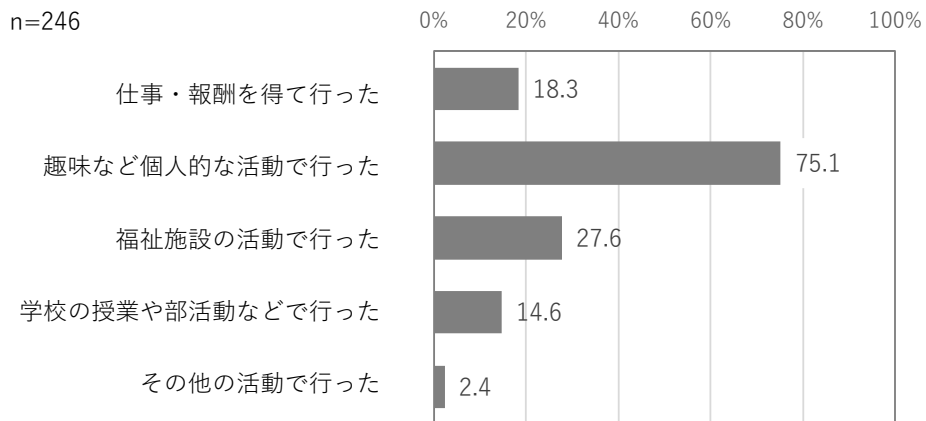
①「創作活動をした」

2024年に鑑賞以外の文化芸術活動で、①創作活動をした人は「趣味など個人的な活動で行った」(75.1%)、「福祉施設の活動で行った」(27.6%)、「仕事・報酬を得て行った」(18.3%)、「学校の授業や部活動などで行った」(14.6%)、「その他の活動で行った」(2.4%)となっている(図表3-3)。

障害の種類別では、ほぼ全ての障害において「趣味など個人的な活動で行った」の割合が最も高く、「視覚障害」は「福祉施設の活動で行った」の割合が最も高い。「内部障害」は「仕事・報酬を得て行った」が3割強(図表3-4)。

図表 3-3 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況

①「創作活動をした」の割合



※2024年の1年間に創作活動をした人ベース

図表 3-4 障害の種類、2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況

①「創作活動をした」の割合

障害の種類	n	仕事・報酬を得て	趣味など個人的な	福祉施設の活動で	学校の授業や部活動	その他の活動で
全体	246	45	185	68	36	6
	100.0	18.3	75.1	27.6	14.6	2.4
肢体不自由 (車椅子必要)	56	12.8	85.7	43.7	22.5	1.4
肢体不自由 (車椅子不要)	35	22.7	88.3	17.5	15.1	4.5
視覚障害	33	18.6	63.5	69.0	16.5	1.5
聴覚障害	57	21.4	86.9	31.7	22.3	0.8
音声・言語・そしゃく機能障害	34	18.7	80.8	51.7	32.3	1.4
内部障害	32	33.8	66.6	41.9	17.3	1.5
知的障害	71	25.8	59.7	38.2	29.6	3.1
発達障害	45	24.7	72.2	39.0	28.1	3.9
精神障害	55	23.7	74.2	35.0	15.8	7.1
その他	1	0.0	17.4	0.0	82.6	0.0

※2024年の1年間に創作活動をした人ベース

(%)

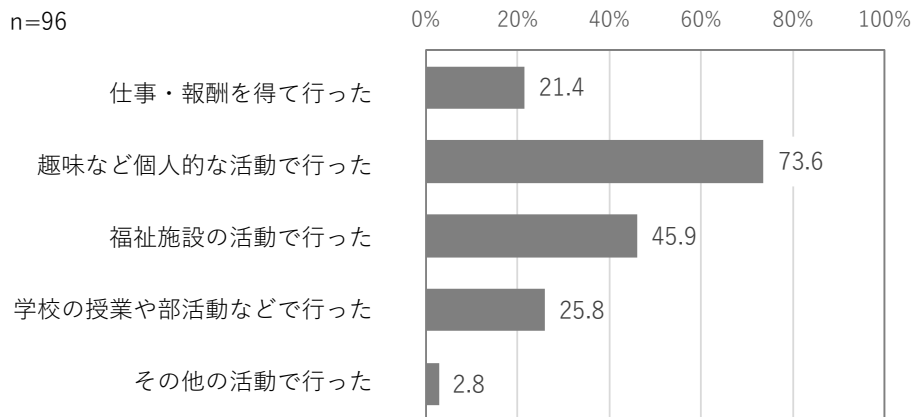
(2) 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況

②「発表をした」

2024年に鑑賞以外の文化芸術活動で、②発表をした人は「趣味など個人的な活動で行った」(73.6%)、「福祉施設の活動で行った」(45.9%)、「学校の授業や部活動などで行った」(25.8%)、「仕事・報酬を得て行った」(21.4%)、「その他の活動で行った」(2.8%)となっている(図表3-5)。

障害の種類別では、「知的障害」では「仕事・報酬を得て行った」「福祉施設の活動で行った」「学校の授業や部活動などで行った」が全体と比べて割合が高め。「精神障害」では、「仕事・報酬を得て行った」「趣味など個人的な活動で行った」が全体と比べて割合が高め。「知的障害」「精神障害」以外の障害は、サンプル数が少なく参考値(図表3-6)。

図表 3-5 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況
②「発表をした」の割合



※2024年の1年間に発表をした人ベース

図表 3-6 障害の種類、2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況
②「発表をした」の割合

障害の種類	n	仕事・報酬を得て	趣味など個人的な	福祉施設の活動で	学校の授業や部活動	その他の活動で
		行った	活動で行った	行った	で行った	行った
全体	96	21	71	44	25	3
	100.0	21.4	73.6	45.9	25.8	2.8
肢体不自由(車椅子必要)	22	24.4	78.9	76.2	53.8	2.2
肢体不自由(車椅子不要)	26	22.5	88.9	48.5	14.1	6.2
視覚障害	11	45.3	65.4	61.0	42.2	4.4
聴覚障害	17	20.8	83.2	75.2	55.3	2.8
音声・言語・そしゃく機能障害	16	22.2	86.0	81.9	62.4	2.9
内部障害	17	26.0	86.6	77.8	26.1	4.5
知的障害	34	42.2	52.9	51.4	39.8	1.4
発達障害	18	37.2	69.2	39.6	48.3	2.6
精神障害	30	35.8	79.9	39.5	19.6	7.9
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※2024年の1年間に発表をした人ベース

(%)

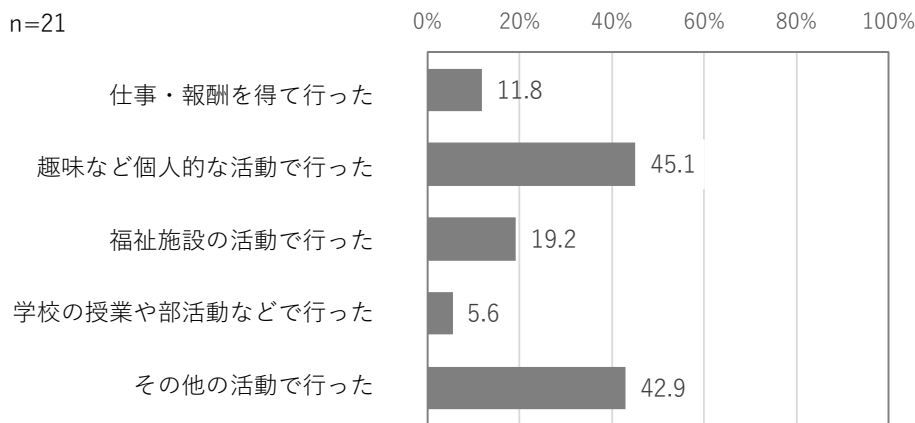
(2) 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況

③「その他の活動をした（ボランティア・支援活動など）」

鑑賞以外の文化芸術活動で、③その他の活動をした人は参考値だが「趣味など個人的な活動で行った」（45.1%）、「その他の活動で行った」（42.9%）「福祉施設の活動で行った」（19.2%）、「仕事・報酬を得て行った」（11.8%）、「学校の授業や部活動などで行った」（5.6%）となっている（図表3-6）。

障害の種類別は、サンプル数が少なく参考値（図表3-7）。

図表 3-6 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況
③「その他の活動をした（ボランティア・支援活動など）」の割合



※2024年の1年間にその他の活動をした人ベース

図表 3-7 障害の種類、2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施状況

③「その他の活動をした（ボランティア・支援活動など）」の割合

障害の種類	n	仕事・報酬を得て	趣味で個人	福祉施設の活動	学校の授業や部活動	その他の活動
		行った	で行った	で行った	で行った	で行った
全体	21	3	10	4	1	9
	100.0	11.8	45.1	19.2	5.6	42.9
肢体不自由（車椅子必要）	0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
肢体不自由（車椅子不要）	14	3.4	49.3	8.2	3.4	49.3
視覚障害	1	52.8	100.0	52.8	52.8	52.8
聴覚障害	0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
音声・言語・そしゃく機能障害	0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
内部障害	1	40.5	100.0	63.8	63.8	63.8
知的障害	4	34.7	68.0	54.5	25.9	13.7
発達障害	3	45.5	90.3	74.3	17.9	37.0
精神障害	5	33.0	31.0	36.5	8.9	45.0
その他	1	60.7	100.0	60.7	0.0	0.0

※2024年の1年間にその他の活動をした人ベース

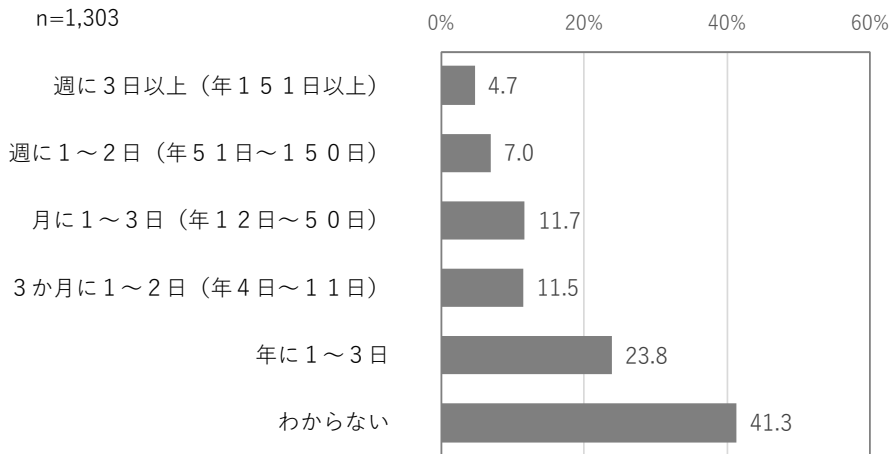
(%)

(3) 鑑賞以外の文化芸術活動を行った日数

鑑賞以外の文化芸術活動を行ったと回答した人が、1年間に文化芸術活動を行った日数は「年に1～3日」(23.8%)が最も多く、次いで「月に1～3日(年12日～50日)」(11.7%)、「3か月に1～2日(年4日～11日)」(11.5%)、「週に1～2日(年51日～150日)」(7.0%)、「週に3日以上(年151日以上)」(4.7%)であった(図表3-8)。

障害の種類別では、「肢体不自由(車椅子必要)」、「聴覚障害」、「音声・言語・そしゃく機能障害」は「月に1～3日(年12日～50日)」の割合が高く、「肢体不自由(車椅子不要)」、「視覚障害」、「内部障害」、「知的障害」、「発達障害」、「精神障害」は「年に1～3日」の割合が高い(図表3-9)。

図表 3-8 2024年に鑑賞以外の文化芸術活動を行った日数



※鑑賞以外の活動をいずれか行っている人ベース

図表 3-9 障害の種類、2024年に鑑賞以外の文化芸術活動を行った日数

障害の種類	n	(週 年に 13 5日 1以 日上 以 上)	(週 年に 51 1以 日上 1 50 日)	(月 年に 11 2以 日上 5 0 日)	(3 年か 4月 日に 1以 上 12 日)	年 に 1 以 上 3 日	わ か ら な い	
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
全体	1,303	62	91	153	149	311	538	
		100.0	4.7	7.0	11.7	11.5	23.8	41.3
肢体不自由(車椅子必要)	165	5.5	7.5	22.5	21.3	20.1	23.0	
肢体不自由(車椅子不要)	400	1.7	4.9	8.5	12.9	22.4	49.6	
視覚障害	90	7.7	6.5	11.8	11.4	20.7	42.0	
聴覚障害	132	9.1	18.0	27.4	4.1	12.0	29.4	
音声・言語・そしゃく機能障害	78	8.1	6.5	22.2	10.1	14.4	38.6	
内部障害	227	8.0	7.0	6.4	5.0	25.6	48.0	
知的障害	199	9.2	8.8	13.3	10.4	26.8	31.6	
発達障害	131	9.5	10.3	11.9	9.9	24.0	34.5	
精神障害	269	8.6	8.2	10.2	10.6	28.8	33.6	
その他	21	0.0	3.5	30.3	33.8	21.7	10.8	

※鑑賞以外の活動をいずれか行っている人ベース

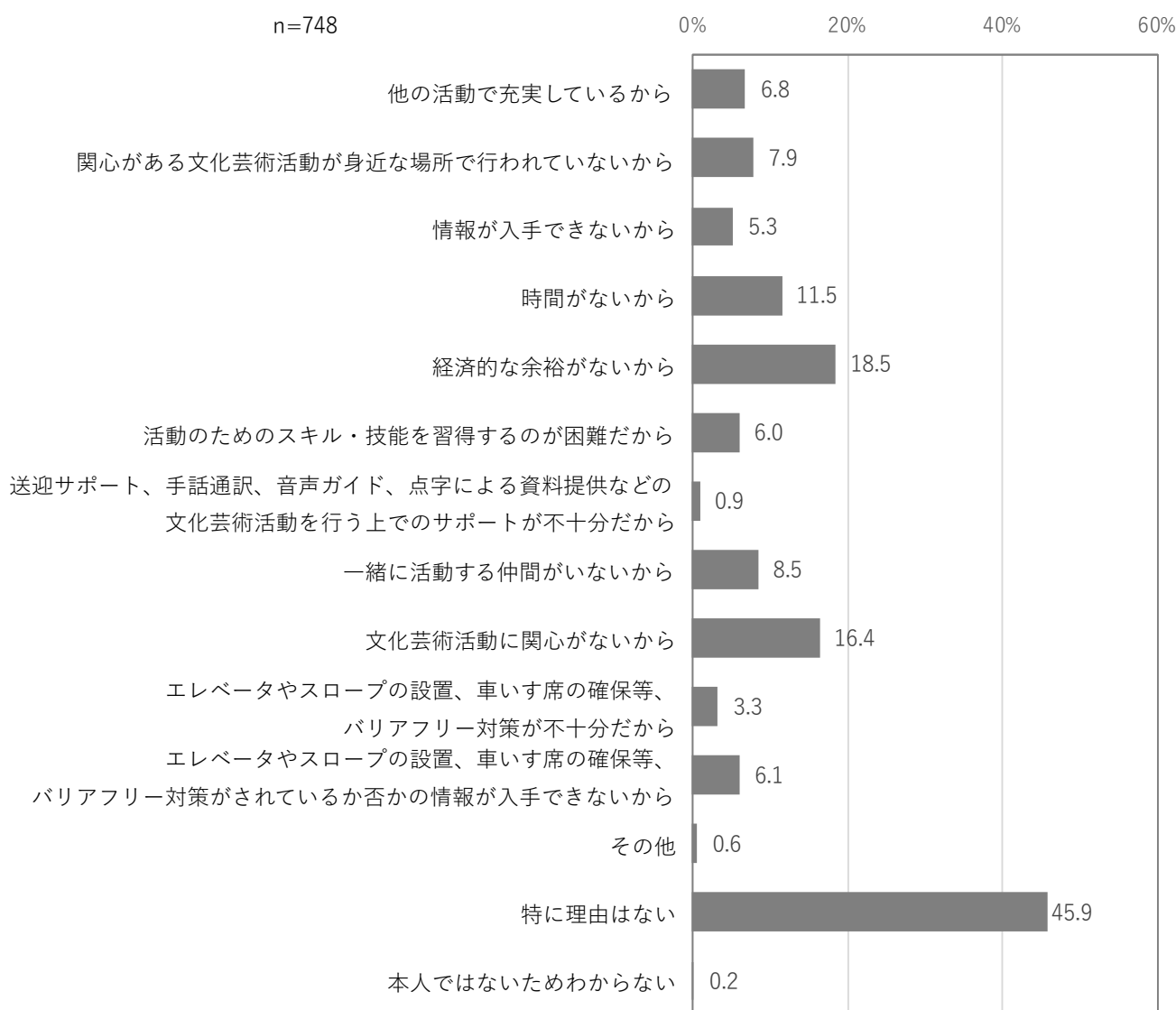
(%)

(4) 鑑賞以外の文化芸術活動を行わなかった理由

鑑賞以外の文化芸術活動を行わなかった理由について「特に理由はない」を除き、最も多いのが、「経済的な余裕がないから」（18.5％）であった。それ以外の理由としては、「文化芸術活動に関心がないから」（16.4％）、「時間がないから」（11.5％）、「一緒に活動する仲間がないから」（8.5％）などである（図表3-10）。

障害の種類別では「特に理由はない」を除き、「肢体不自由（車椅子必要）」が「エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策がされているか否かの情報が入手できないから」の割合が最も高い。「肢体不自由（車椅子不要）」、「視覚障害」、「内部障害」、「知的障害」、「発達障害」、「精神障害」では「経済的な余裕がないから」の割合が最も高くなっている。また「聴覚障害」、「音声・言語・そしゃく機能障害」は「文化芸術活動に関心がないから」が最も割合が高く、特に「音声・言語・そしゃく機能障害」は約6割を占める（図表3-11）。

図表 3-10 2024年に鑑賞以外の文化芸術活動を行わなかった理由



※鑑賞以外の活動をいずれも行わなかった人ベース

図表 3-11 障害の種類、2024年に鑑賞以外の文化芸術活動を行わなかった理由

障害の種類	n	他の活動で充実しているから	関心がある文化芸術活動が身近な場所で行われていないから	情報が入手できないから	時間がないから	経済的な余裕がないから	困難だから	活動のためのスキル・技能を習得するのが	送迎サポート、手話通訳、音声ガイド、点字による資料提供などの文化芸術活動を行う上でのサポートが不十分だから	一緒に活動する仲間がいないから	文化芸術活動に関心がないから	確保等、バリアフリー対策が不十分だから	エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保が入手できないから	エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策がされているかどうかの情報	その他	特に理由はない	本人ではないためわからない
全体	748	51	59	39	86	138	45	7	63	123	25	45	5	343	2		
	100.0	6.8	7.9	5.3	11.5	18.5	6.0	0.9	8.5	16.4	3.3	6.1	0.6	45.9	0.2		
肢体不自由（車椅子必要）	51	16.5	14.8	13.0	10.1	11.3	6.1	0.0	8.9	7.5	4.6	18.5	2.2	44.6	0.8		
肢体不自由（車椅子不要）	190	0.9	8.7	3.5	11.3	20.2	1.2	0.2	4.1	9.6	10.5	17.9	0.0	57.7	0.0		
視覚障害	38	19.4	8.5	2.5	6.8	25.2	0.0	1.1	2.5	23.5	19.4	19.4	0.0	45.5	0.0		
聴覚障害	79	1.9	0.4	0.7	9.3	9.3	1.2	0.0	16.6	27.5	8.1	8.1	0.0	53.0	0.0		
音声・言語・そしゃく機能障害	34	3.1	7.3	1.6	3.6	6.5	0.8	1.3	1.6	58.9	0.0	0.0	1.4	26.9	0.0		
内部障害	153	13.2	13.5	8.6	6.9	17.7	13.0	0.7	13.2	13.8	0.0	4.2	1.3	30.3	0.3		
知的障害	140	2.8	5.3	6.0	11.7	15.5	6.5	2.5	5.9	10.9	0.3	0.3	0.6	59.0	1.1		
発達障害	66	8.2	9.9	7.4	19.4	19.7	10.6	2.3	10.8	11.5	1.7	1.7	0.7	44.8	1.1		
精神障害	163	6.1	7.8	5.4	14.1	30.8	6.4	1.5	9.8	17.6	1.4	5.4	1.4	40.0	0.3		
その他	5	2.8	13.6	25.3	25.6	35.8	0.0	0.0	29.6	0.0	0.0	0.0	0.0	17.9	0.0		

※鑑賞以外の活動をいずれも行わなかった人ベース

(%)

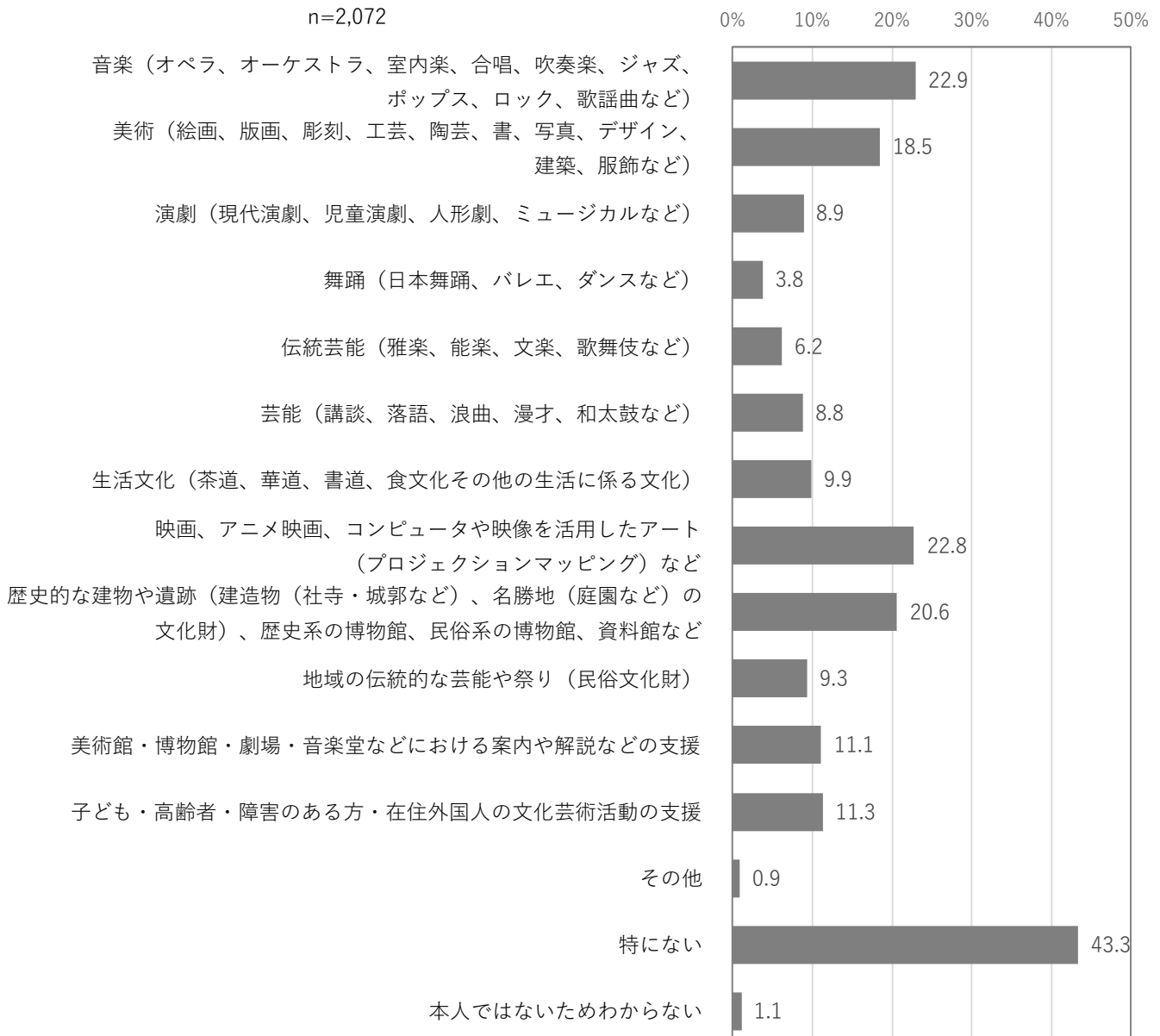
(5) 鑑賞以外の文化芸術活動への参加・興味の有無

鑑賞以外の文化芸術活動に今後、実践したり参加したいかについて、最も多い回答は「特にない」(43.3%)だが、それ以外では、「音楽(オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など)」(22.9%)、「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート(プロジェクションマッピング)など」(22.8%)、「歴史的な建物や遺跡(建造物(社寺・城郭など)、名勝地(庭園など)の文化財)、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」(20.6%)、「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など)」(18.5%)の割合が高い(図表3-12)。

障害の種類別では「特にない」を除き、「肢体不自由(車椅子必要/不要)」、「聴覚障害」、「精神障害」が「音楽(オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など)」の割合が最も高いが、「視覚障害」、「内部障害」、「知的障害」、「発達障害」は「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート(プロジェクションマッピング)など」の割合が最も高い。

また、「音声・言語・そしゃく機能障害」は「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など)」への参加・興味の割合が最も高い(図表3-13)。

図表 3-12 鑑賞以外の文化芸術活動への参加・興味の有無



図表 3-13 障害の種類、鑑賞以外の文化芸術活動への参加・興味の有無

障害の種類	n	音楽（オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクトエクシオンマッピング）など	博物館、資料館など	歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館	地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	美術館・博物館・劇場・音楽堂などにおける案内や解説などの支援	子ども・高齢者・障害のある方・在住外国人の文化芸術活動の支援	その他	特になし	本人ではないためわからない
全体	2,072	475	382	184	79	129	183	205	472	427	194	230	234	19	897	23	
	100.0	22.9	18.5	8.9	3.8	6.2	8.8	9.9	22.8	20.6	9.3	11.1	11.3	0.9	43.3	1.1	
肢体不自由（車椅子必要）	218	35.9	27.9	17.5	10.6	12.7	13.7	20.4	19.6	22.6	12.8	19.6	33.1	0.2	25.3	0.4	
肢体不自由（車椅子不要）	592	22.3	16.5	7.1	2.0	3.5	9.6	10.3	21.4	21.8	10.8	9.4	9.4	2.3	49.7	0.1	
視覚障害	128	27.1	26.6	9.0	7.2	6.0	7.9	8.5	41.6	28.5	5.4	19.8	23.6	0.4	33.6	0.3	
聴覚障害	212	25.7	23.0	11.2	7.1	10.7	13.7	12.1	24.2	23.9	10.3	22.5	12.4	0.2	36.1	3.7	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	37.5	38.3	24.4	16.2	11.8	24.5	25.1	23.8	32.4	24.3	26.2	19.9	0.6	30.7	2.3	
内部障害	381	18.0	20.9	8.0	3.9	10.3	11.0	8.4	32.7	24.2	12.6	10.6	12.1	0.7	37.9	0.3	
知的障害	356	20.3	14.9	11.4	6.4	6.1	7.4	9.7	23.6	15.2	9.4	11.1	14.7	0.3	42.3	4.1	
発達障害	202	26.5	19.9	13.9	7.2	8.8	10.0	11.9	32.6	20.6	10.8	13.5	16.9	0.8	37.2	1.9	
精神障害	436	27.7	19.2	13.2	6.7	7.7	8.8	11.5	22.1	17.4	10.3	11.4	12.4	0.9	45.1	0.5	
その他	26	10.1	32.5	5.0	0.0	0.0	5.0	7.4	31.6	33.4	9.1	7.7	12.4	0.0	23.6	0.0	

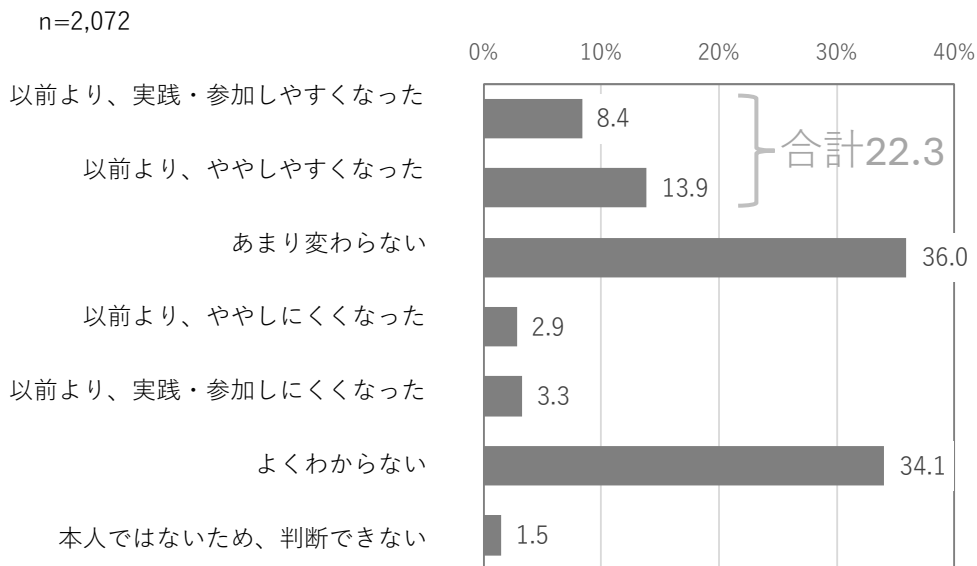
(%)

(6) 4年前(2021年頃)と比較した鑑賞を除く、文化芸術活動に係る環境の変化

4年前(2021年頃)と比較して、鑑賞を除く文化芸術活動に参加しやすい環境が整ってきたと感じるかについて、「あまり変わらない」(36.0%)の回答が最も多く、次いで、「よくわからない」(34.1%)、「以前より、やややすくなった」(13.9%)、「以前より、実践・参加しやすくなった」(8.4%)、「以前より、実践、参加しにくくなった」(3.3%)、「以前より、ややしにくくなった」(2.9%)となっている。全体の22.3%が「しやすくなった」、「ややしやすくなった」と感じている(図表3-14)。

障害の種類別では、「肢体不自由(車椅子必要)」、「聴覚障害」、「音声・言語・そしゃく機能障害」では「以前より、実践・参加しやすくなった」の割合が全体よりも高い。「肢体不自由(車椅子不要)」、「内部障害」は「あまり変わらない」の割合が全体よりも高めで4割を超える(図表3-15)。

図表 3-14 4年前(2021年頃)と比較した鑑賞を除く、文化芸術活動に係る環境の変化



図表 3-15 障害の種類、4年前(2021年頃)と比較した鑑賞を除く文化芸術活動に係る環境の変化

障害の種類	n	以前より、実践・参加しやすくなった	以前より、やややすくなった	あまり変わらない	以前より、ややしにくくなった	以前より、実践・参加しにくくなった	よくわからない	本人ではないため、判断できないため、
全体	2,072	174	288	745	59	68	706	32
	100.0	8.4	13.9	36.0	2.9	3.3	34.1	1.5
肢体不自由(車椅子必要)	218	15.0	16.2	33.9	4.3	3.9	26.0	0.6
肢体不自由(車椅子不要)	592	5.9	10.9	42.1	4.3	2.4	33.2	1.2
視覚障害	128	8.3	12.8	37.4	6.1	1.0	33.9	0.6
聴覚障害	212	19.8	27.1	18.4	3.2	4.1	24.0	3.4
音声・言語・そしゃく機能障害	114	13.0	29.8	28.3	1.1	3.2	23.3	1.4
内部障害	381	8.5	12.7	40.9	3.7	2.4	31.8	0.0
知的障害	356	9.5	15.8	29.6	3.5	4.1	33.3	4.2
発達障害	202	9.6	18.4	30.5	1.8	3.8	34.0	1.8
精神障害	436	9.5	12.2	33.7	2.4	4.4	36.9	1.0
その他	26	0.0	36.6	42.9	0.0	6.8	10.4	3.3

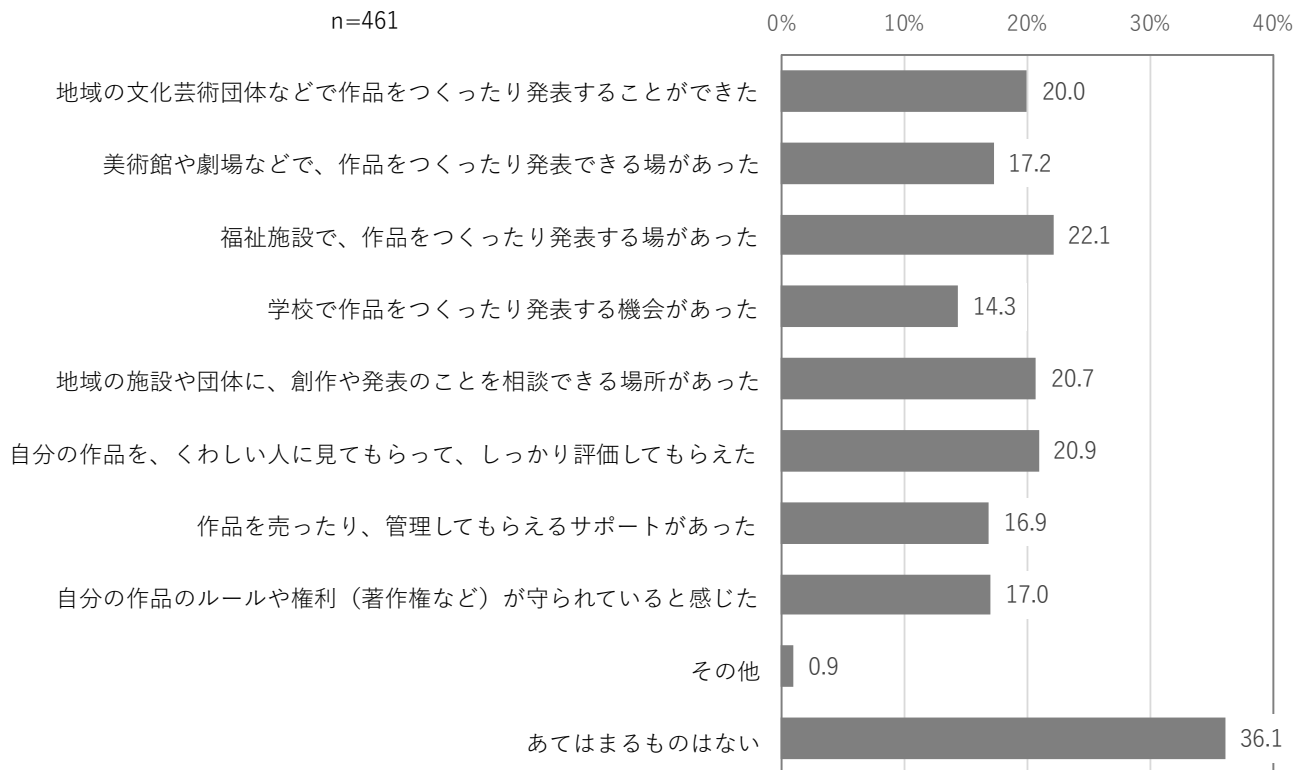
(7) 4年前(2021年頃)と比較した鑑賞を除く、文化芸術活動に係る環境の変化 「以前より、実践・参加しやすくなった」「ややしやすくなった」

4年前(2021年頃)と比較して、鑑賞を除く文化芸術活動に係る環境の変化について「あてはまるものはない」(36.1%)を除き、「福祉施設で、作品をつくったり発表する場があった」(22.1%)が最も多く、次いで「自分の作品を、くわしい人に見てもらって、しっかり評価してもらえた」(20.9%)、僅差で「地域の施設や団体に、創作や発表のことを相談できる場所があった」(20.7%)、「地域の文化芸術団体などで作品をつくったり発表することができた」(20.0%)などである(図表3-16)。

障害の種類別では、「精神障害」、「聴覚障害」が「福祉施設で、作品をつくったり発表する場があった」と最も多く回答。「発達障害」、「知的障害」では「学校で作品をつくったり発表する機会があった」の回答が最も多い。

また「肢体不自由(車椅子必要)」、「音声・言語・そしゃく機能障害」は「自分の作品を、くわしい人に見てもらって、しっかり評価してもらえた」が4割を超え最も多かった(図表3-17)。

図表 3-16 4年前(2021年頃)と比較した鑑賞を除く、文化芸術活動に係る環境の変化
「以前より、実践・参加しやすくなった」「ややしやすくなった」



※以前より、実践・参加しやすくなった・ややしやすくなった人ベース

図表 3-17 障害の種類、4年前（2021年頃）と比較した鑑賞を除く、文化芸術活動に係る環境の変化 「以前より、実践・参加しやすくなった」「ややしやすくなった」

障害の種類	n	地域の文化芸術団体などができた	美術館や劇場などで作品をつくった	福祉施設で、作品をつくったり発表する場があった	学校で作品をつくったり発表する機会があった	地域の施設や団体に、創作や発表の場を相談できる場所があった	自分の作品を、知り合いに評価してもらえた	作品が売ったり、管理してもらえたり	自分の作品の権利（著作権など）が守られていたり感じた	その他	あてはまるものはない
		全体	461	92	80	102	66	96	96	78	78
	100.0	20.0	17.2	22.1	14.3	20.7	20.9	16.9	17.0	0.9	36.1
肢体不自由（車椅子必要）	68	35.9	32.0	38.6	25.1	37.1	45.3	25.7	24.1	0.7	14.9
肢体不自由（車椅子不要）	99	17.3	16.0	15.4	13.7	16.8	15.9	18.8	11.7	1.0	52.5
視覚障害	27	24.1	31.2	37.5	30.5	39.4	41.0	30.3	32.7	4.4	23.7
聴覚障害	100	26.9	28.0	36.2	13.0	24.3	33.7	21.5	23.2	1.0	20.3
音声・言語・そしゃく機能障害	49	29.2	28.8	29.4	28.1	28.9	43.5	32.9	28.5	1.0	41.2
内部障害	81	14.9	7.4	8.4	8.1	16.1	15.9	9.7	17.1	1.5	67.5
知的障害	90	27.3	19.7	31.7	32.2	25.2	25.9	24.8	28.0	1.5	14.0
発達障害	57	24.8	19.3	32.6	33.6	33.5	24.7	26.4	28.7	3.0	12.8
精神障害	95	27.7	21.9	38.8	22.0	28.8	22.7	28.4	25.9	1.8	22.7
その他	10	15.3	0.0	15.3	0.0	7.7	10.4	10.4	2.7	0.0	82.0

※以前より、実践・参加しやすくなった・ややしやすくなった人ベース

(%)

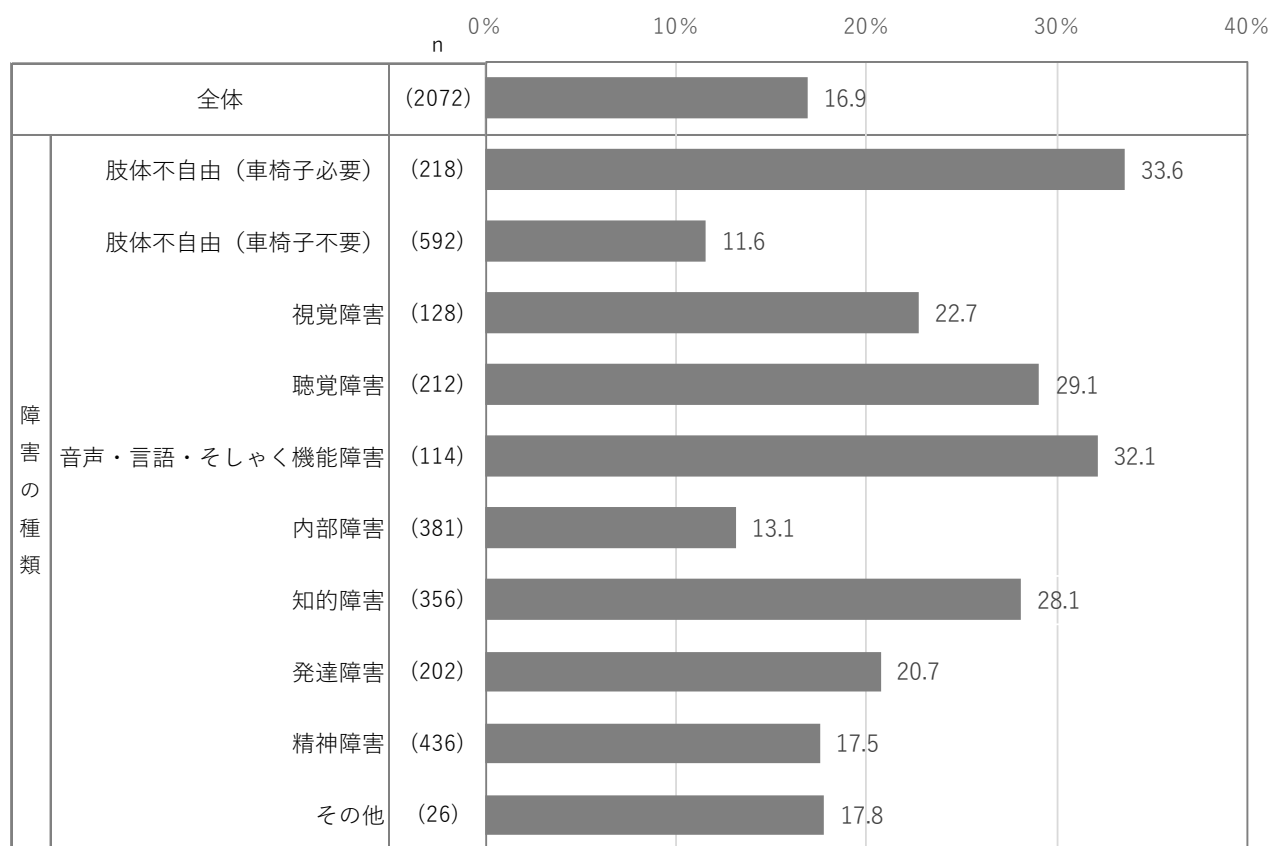
4. 障害者文化芸術推進法及び基本計画の認知状況

(1) 「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律 (障害者文化芸術推進法)」の認知状況

障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（障害者文化芸術推進法）の認知状況について、全体では16.9%が「知っている」と回答。

障害の種類別では、「肢体不自由（車椅子必要）」、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「聴覚障害」が3割程度の認知率で上位。次いで「知的障害」、「視覚障害」、「発達障害」が2割台の認知率、それ以外の障害者の認知率は2割に満たない（図表 4-1）。

図表 4-1 「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（障害者文化芸術推進法）」の認知状況



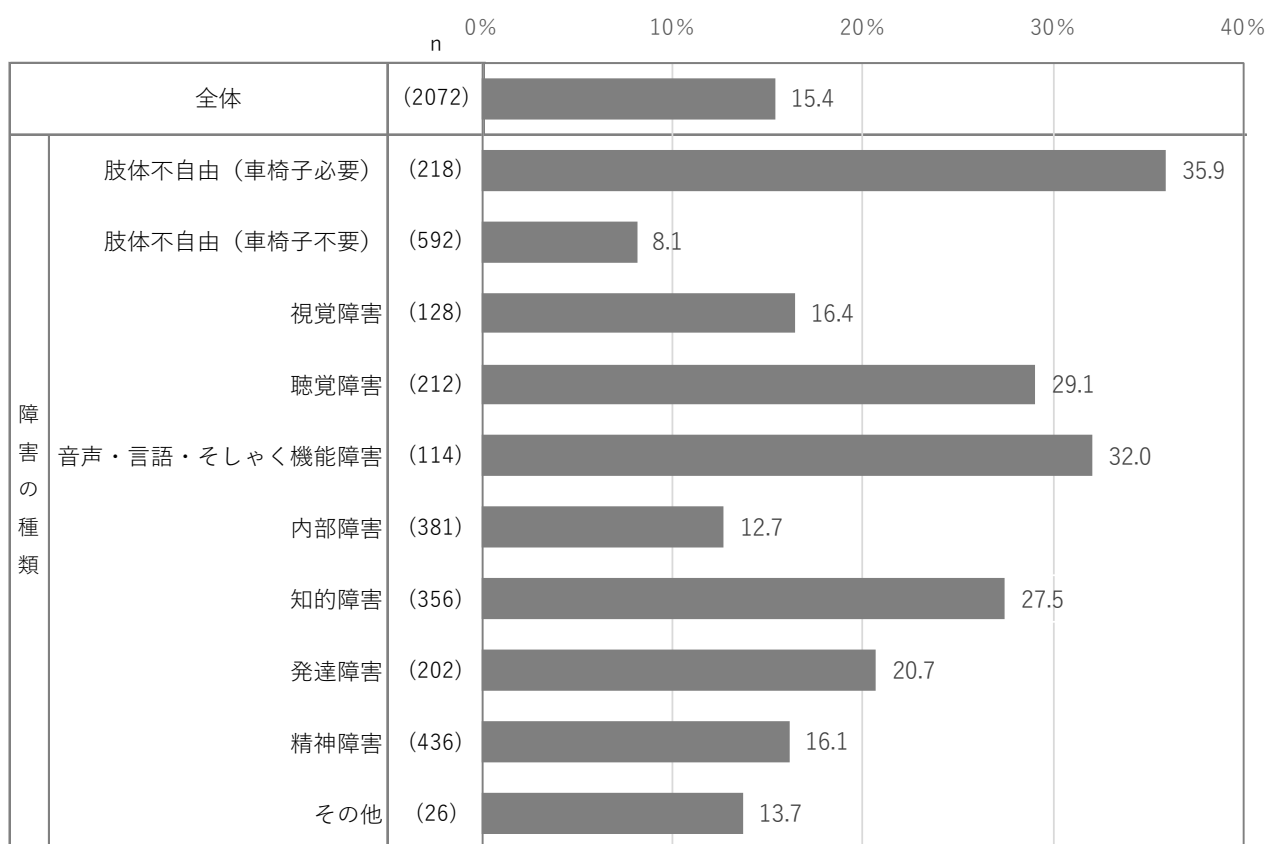
(2) 「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」の認知状況

障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画の認知状況について、全体では15.4%が「知っている」と回答。

障害の種類別では、「肢体不自由（車椅子必要）」、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「聴覚障害」が約3割以上の認知率で上位。次いで「知的障害」、「発達障害」が2割台の認知率、「視覚障害」、「精神障害」、「内部障害」の認知率は1割台となっている。

また、「肢体不自由（車椅子不要）」の認知率は1割に満たない（図表4-2）。

図表 4-2 「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」の認知状況



5. 考察

この章では、調査結果に対する、障害者の文化芸術活動に知見がある有識者2名からの見解も踏まえ「文化芸術の直接鑑賞経験」「文化芸術の直接鑑賞以外の経験」「合理的配慮」「環境整備」「障害者文化芸術推進法・基本計画の認知」に対する課題と考察をまとめる。

(1) 文化芸術の直接鑑賞経験についての考察

直近1年間の文化芸術の直接鑑賞率は50.6%と活動の裾野には依然として拡大余地がある。主な鑑賞対象となる「美術」や「博物館（歴史的な建物や遺跡、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など）」において、身体障害者と知的・精神障害者で鑑賞率に差が見受けられた。

この差異について美術館・博物館は「物理的バリア（ハード面）」が少ない可能性があるため、身体障害者のスコアが高いのではないかと、一方、知的・精神障害者にとっては鑑賞マナー等を気にする「心理的バリア（心のバリア）」が影響しているのではないかと考察された（図表 5-1）。

文化芸術を直接鑑賞しなかった理由として、「近くで実施していない」「費用がかかる」といった物理的・経済的要因に加え、障害特性に応じた特有の障壁の存在が浮き彫りになった。特に以下の3点が重要な政策課題として特定された（図表 5-2）。

身体障害: 「バリアフリー対策がされているかどうかの情報が入手できない」（10.2%）という回答が、「バリアフリー対策が不十分」（7.4%）を上回った。有識者はこの点について、対策そのものよりも情報アクセシビリティに課題があることを示唆していると分析した（図表 5-2）。

知的障害: 「周りに迷惑がかかるから」（10.3%）という回答が他群よりも高い。特に静粛さが求められる「美術」の鑑賞率が低く（12.8%）、障害の特性について、社会的な理解や受容が十分に広がり切っていない部分があることから、本人や家族の参加自制を招く心理的障壁となっている（図表 5-1・図表 5-2）。

精神障害: 「費用がかかり過ぎるから」（26.8%）が突出して高く、経済的基盤が文化芸術参加の大きな障壁となっている可能性がある（図表 5-2）。

図表 5-1 2024年に文化芸術を直接鑑賞した割合とそのジャンル

障害の種類	n	音楽	美術	演劇	舞踊	伝統芸能	芸能	生活文化	や映像を活用したアートなど	映画、アニメ映画、コンピュータ	館、民俗系の博物館、資料館など	地域の伝統的な芸能や祭り	その他	鑑賞したものはない	本人ではないためわからない	(わかれか鑑賞を除外)
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)		
全体	2,072	346	381	129	79	72	123	130	616	410	159	6	1,013	10	1,048	
	100.0	16.7	18.4	6.2	3.8	3.5	5.9	6.3	29.7	19.8	7.7	0.3	48.9	0.5	50.6	
身体障害	1,406	15.5	20.8	6.1	4.1	3.7	6.4	7.1	29.9	21.8	8.6	0.1	48.9	0.2	50.9	
知的障害	356	18.8	12.8	8.5	5.2	5.0	8.0	5.8	29.4	15.7	8.3	0.9	48.0	2.3	49.7	
精神障害	562	20.2	14.9	7.5	4.2	4.7	5.9	6.4	29.7	18.0	7.1	0.6	48.9	1.1	50.1	

(%) (%)

図表 5-2 2024年に文化芸術を直接鑑賞しなかった理由

障害の種類	n	近くで公演や展覧会などをやっているから	入場料・交通費など費用がかかり過ぎるから	困難だから	公演や展覧会などが人気で、チケットの入手が	文化芸術を鑑賞する時間がなかなかとれないから	夜間に公演や展覧会などが行われないから	魅力ある公演や展覧会などが少ないから	公演や展覧会などの情報が入手できないから	一緒に行く仲間がいないから	テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる(鑑賞した)から	周りに迷惑がかかるから	送迎サポートがないから	字幕表示等の鑑賞サポートが不十分だから	文化芸術に関心がないから	等、バリアフリー対策が不十分だから	エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保	エレベーター対策がされているかどうかの情報が入手できないから	その他	特に理由はない	本人ではないためわからない
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	1,013	199	196	18	43	7	108	26	123	109	62	47	8	192	52	74	66	348	1		
	100.0	19.7	19.3	1.7	4.3	0.7	10.7	2.5	12.2	10.8	6.1	4.7	0.8	18.9	5.2	7.3	6.6	34.4	0.1		
身体障害	687	21.6	17.0	1.5	3.3	0.5	10.6	1.6	12.0	11.3	6.2	5.0	1.0	18.7	7.4	10.2	7.9	33.2	0.1		
知的障害	171	13.6	16.3	2.1	4.3	2.0	7.8	2.9	11.8	6.9	10.3	4.8	0.5	18.1	0.6	1.8	3.6	44.2	0.0		
精神障害	274	22.7	26.8	2.7	7.4	2.0	10.3	4.6	14.9	14.9	6.7	4.0	0.0	18.0	3.6	6.1	8.3	28.0	0.3		

※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞しなかった人ベース

(%)

(2) 文化芸術の直接鑑賞以外の経験についての考察

鑑賞活動とは対照的に、創作・発表活動では知的障害者の参加率が27.6%と他種別を大きく上回る「逆転現象」が施策的示唆として浮かび上がった。(図表 5-3)

このような結果について、有識者は知的障害のある人の中には「表現への興味や衝動が強い」人がいることの現れではないかと考察しており、鑑賞における心理的バリアとは異なる、内発的な動機が活動を強く促進している可能性がある。

一方で身体障害者の創作活動参加率が低いという指摘もあり、「身体特性に合わせた創作の機会や支援がまだ十分に普及していないのではないか」という点も今後の課題として考えられる。

以上の議論から、障害者の文化芸術活動は「鑑賞」と「創作」で参加の動態や障壁が大きく異なり、それぞれの特性に応じた細やかな環境整備や機会提供が重要である。この視点は、次なる論点である参加機会の充実に向けた具体的なアプローチを検討する上で重要な基盤といえる。

図表 5-3 2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施・参加状況

障害の種類	n	創作活動をした	発表をした	(その他の活動をした ポランのテイア・支援活動など)	特に行っていない	わ本人ではないため	いずれか実施(わからないを除く)
全体	2,072	246	96	21	1,758	13	314
	100.0	11.9	4.6	1.0	84.8	0.6	15.3
身体障害	1,406	11.1	4.1	1.0	86.2	0.3	13.9
知的障害	356	19.8	9.4	1.0	73.2	3.0	27.6
精神障害	562	14.1	7.3	1.1	82.3	0.7	17.8

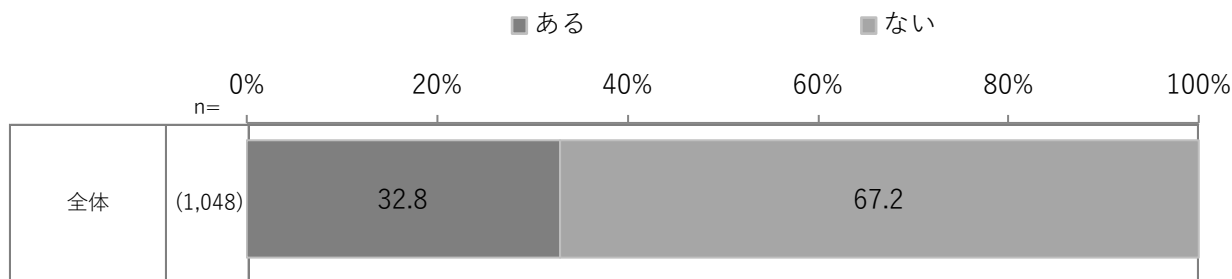
(3) 合理的配慮についての考察

文化施設等に対して合理的配慮を求めた経験があるのは、全体の32.8%であった（図表 5-4）。

障害種別では知的障害者の要請経験が47.4%と特に高く、具体的な要請場面や内容を調査する必要がある。また、要請経験者のうち、87.1%が「適切な対応がとられた」と回答しており、要請があった場合の対応の質は高い水準にあることが確認された（図表 5-5・図表 5-6）。

ただし、有識者は「合理的配慮を求める必要がない環境が理想」であると指摘。そのため、「要請経験が少ないこと」を単純な課題と見なすのではなく、そもそも調整が不要なほど環境が整備されている可能性も考慮すべきであるとし、指標の解釈には多角的な視点が必要である。

図表 5-4 合理的配慮を求めた経験



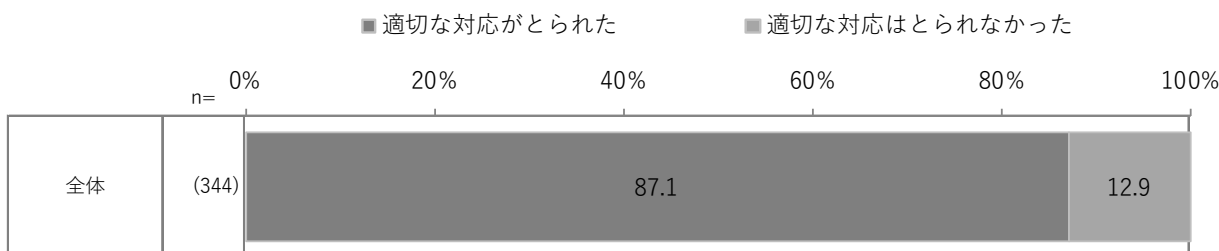
※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞した人ベース

図表 5-5 障害の種類、合理的配慮を求めた経験

障害の種類	n	ある	ない
全体	1,048	344	704
	100.0	32.8	67.2
身体障害	716	32.4	67.6
知的障害	177	47.4	52.6
精神障害	281	34.3	65.7

※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞した人ベース (%)

図表 5-6 適切な合理的配慮の経験



※文化芸術活動を直接鑑賞するにあたり合理的配慮を求めた人ベース

(4) 環境整備についての考察

文化芸術の直接鑑賞が「しやすくなった」と感じる最大の要因として、「車椅子席やスロープ等の物理的な施設整備」(50.9%)が挙げられ、ハード面の改善が着実に進んでいることが示された。同時に、「スタッフの配慮が行き届いていた」(34.7%)という人的・心理的なバリアフリーの要素も高く評価されており、ハード面とソフト面の両輪での環境整備の重要性が確認された。(図表 5-7)

鑑賞しやすくなった要因は、障害種別によって大きく異なった。

身体障害者にとってはハード面の改善が最も影響が大きかったのに対し、知的・精神障害者にとっては「学校での鑑賞機会の提供」や「地域における相談・アドバイス体制」といった、教育や福祉とのネットワークを通じた支援が重要な要因となっていた。(図表 5-7)

さらに、P44(文化芸術の直接鑑賞経験についての考察)で述べたとおり、物理的な環境整備が進んでもその情報が当事者に届かない情報アクセシビリティの問題が、参加機会を阻害する大きな要因として改めて特定された。

本議論を通じ、物理的なバリアフリー整備に加え、情報保障、人的サポート、そして文化・福祉・教育といった分野横断的な地域連携といったソフト面の充実が、障害者の文化芸術への参加機会を実質的に拡充する上で不可欠であると考えられる。

図表 5-7 障害の種類、文化芸術の直接鑑賞経験の整備状況で整ってきたと感じる理由

障害の種類	n	出入口や館内の段差がなく、スロープやエレベーターなどスムーズに移動できた	車椅子席や多目的トイレなど、障害に配慮した設備が整っていた	施設や公共交通機関から発信される情報がよく配	ループなどが利用できた	日本語字幕、手話通訳、音声ガイド、ヒアリング	介助者の同伴や移動支援のサービスがあった	内容理解を助けるための事前説明会や資料などが提供されていた	鑑賞しやすい時間帯や座席への配慮がなされていた	障害のある方向けの鑑賞プログラム(例:ワークショップ付き、少人数制など)が用意されていた	地域の文化芸術団体や福祉施設、行政などで、鑑賞に関する相談やアドバイスを受けられた	小・中学校や特別支援学校などで、鑑賞機会が提供された	障害のある方による作品の展示・公演などを目にする機会が増えた	快適に鑑賞できた	スタッフの方の配慮が行き届いていて、安心して	その他	あてはまるものはない
		全体	500	198	255	138	106	132	96	155	82	68	77	124	174	3	18
	100.0	39.5	50.9	27.5	21.2	26.4	19.2	30.9	16.4	13.7	15.3	24.8	34.7	0.5	3.5		
身体障害	319	42.4	56.0	29.6	21.2	31.1	20.2	34.8	14.1	12.0	15.5	24.0	36.9	0.2	1.1		
知的障害	101	31.8	36.0	26.7	25.0	25.7	20.7	27.2	24.5	26.7	25.4	26.0	30.0	0.4	6.2		
精神障害	153	36.6	48.6	27.4	26.1	24.1	21.4	30.3	25.4	19.2	18.6	32.5	36.7	1.7	7.0		

※以前より、直接鑑賞しやすくなった・やややすくなった人ベース

(%)

(5) 障害者文化芸術推進法・基本計画の認知についての考察

調査結果では、法律（16.9%）および基本計画（15.4%）の認知率は全体として低い水準にとどまっている。一方で、障害種別で見ると、知的障害者の認知率が約3割（法: 28.1%, 計画: 27.5%）と突出して高く、これは「合理的配慮の要請経験率」の高さと関連している可能性が有識者より指摘された。（図表 5-8・図表 5-9）

法律の存在が権利行使の心理的な後押しとなり、当事者の主体的な参加を促すという仮説は、今後の普及啓発活動の方向性を考える上で極めて重要であり、次回以降の第三期基本計画でも考慮すべきと考えられる。

また、法律や計画の認知を広げるだけでなく、その内容を当事者が理解できる形で届けることが重要であると示唆された。

有識者は法律の条文をそのまま伝えるのではなく、障害の特性に配慮した「わかりやすいリーフレット」のような媒体で情報提供を行う必要性を提言した。

以上のことから、地域における推進体制の構築には、単に法律や計画の存在を広く周知するだけでなく、その理念や内容を当事者一人ひとりに届けるための情報アクセシビリティの向上が急務であることが示された。

図表 5-8 障害の種類、障害者文化芸術推進法の認知

障害の種類	n	知っている	知らない
全体	2,072	350	1,722
	100.0	16.9	83.1
身体障害	1,406	15.8	84.2
知的障害	356	28.1	71.9
精神障害	562	17.8	82.2

(%)

図表 5-9 障害の種類、障害者文化芸術活動推進基本計画の認知

障害の種類	n	知っている	知らない
全体	2,072	318	1,754
	100.0	15.4	84.6
身体障害	1,406	14.0	86.0
知的障害	356	27.5	72.5
精神障害	562	16.5	83.5

(%)

主 要 統 計 表

第1表 障害の種類、本人及び同居する家族における障害児・者の有無

障害の種類	n	あなたご自身	配偶者	父親	母親	兄弟	姉妹	(お子様 第1子)	(お子様 第2子以降)	(その他親族 叔父・叔母など)	ない	あてはまるものは
全体	2,072	1,712	157	142	158	33	34	119	104	31	0	
	100.0	82.6	7.6	6.8	7.6	1.6	1.6	5.7	5.0	1.5	0.0	
肢体不自由(車椅子必要)	218	73.5	12.7	6.3	17.7	1.8	2.4	7.5	6.9	2.4	0.0	
肢体不自由(車椅子不要)	592	85.0	7.6	9.2	8.0	0.7	0.5	3.5	2.2	1.8	0.0	
視覚障害	128	79.3	5.2	12.8	9.2	2.1	1.4	5.2	4.4	2.5	0.0	
聴覚障害	212	70.1	12.4	20.3	9.7	1.6	1.4	4.3	6.5	1.4	0.0	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	80.7	18.4	9.2	3.4	4.4	3.3	5.1	4.7	2.6	0.0	
内部障害	381	87.3	4.9	9.6	9.3	0.8	2.7	3.5	5.4	0.7	0.0	
知的障害	356	61.4	10.4	5.9	9.2	7.2	5.0	18.9	15.8	5.0	0.0	
発達障害	202	77.9	9.0	5.2	7.6	5.0	3.8	19.0	14.5	3.3	0.0	
精神障害	436	93.0	6.3	4.4	6.3	2.3	3.0	3.7	3.0	2.3	0.0	
その他	26	86.2	0.2	0.0	1.7	2.0	0.0	8.5	8.6	2.8	0.0	

(%)

第2表 障害の種類、障害児・者の性別

障害の種類	n	男性	女性	その他	回答しない
全体	2,072	1,377	695	0	1
	100.0	66.4	33.5	0.0	0.0
肢体不自由(車椅子必要)	218	61.5	38.5	0.0	0.0
肢体不自由(車椅子不要)	592	72.1	27.9	0.0	0.0
視覚障害	128	72.6	27.3	0.0	0.1
聴覚障害	212	72.0	28.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	114	77.1	22.7	0.0	0.1
内部障害	381	74.5	25.5	0.0	0.0
知的障害	356	55.8	44.1	0.0	0.1
発達障害	202	55.4	44.6	0.0	0.0
精神障害	436	57.0	43.0	0.0	0.0
その他	26	72.8	27.2	0.0	0.0

(%)

第3表 障害の種類、障害児・者の年齢

障害の種類	n	7	1	1	2	3	4	5	6	7	平均値 (歳)
		 9 歳	0 1 5 歳	6 1 9 歳	0 2 9 歳	0 3 9 歳	0 4 9 歳	0 5 9 歳	0 6 9 歳	0 歳 以上	
全体	2,072	20	48	50	145	131	190	228	769	490	57.3
	100.0	1.0	2.3	2.4	7.0	6.3	9.2	11.0	37.1	23.7	
肢体不自由（車椅子必要）	218	0.5	1.4	0.5	3.6	3.7	6.4	12.1	37.6	34.2	64.0
肢体不自由（車椅子不要）	592	0.0	0.6	0.6	1.7	2.0	4.5	7.7	50.5	32.5	65.8
視覚障害	128	0.5	0.9	1.0	4.4	4.0	12.3	12.0	48.4	16.5	58.9
聴覚障害	212	0.7	1.8	1.4	5.0	3.7	5.6	5.6	34.0	42.1	65.0
音声・言語・そしゃく機能障害	114	1.8	0.7	2.0	3.5	4.3	7.4	5.3	53.6	21.4	60.9
内部障害	381	0.2	0.5	0.6	1.7	2.0	4.9	8.6	54.6	26.8	63.9
知的障害	356	3.9	9.9	9.5	22.4	14.4	12.4	8.9	9.1	9.5	37.6
発達障害	202	3.7	9.0	9.1	24.0	17.3	16.4	9.3	8.4	2.8	34.8
精神障害	436	0.0	0.5	1.5	11.1	14.4	19.4	22.2	20.2	10.7	50.0
その他	26	2.2	10.0	0.0	5.7	9.4	8.3	6.3	56.5	1.7	50.1

(%)

第4表 障害の種類、障害児・者の障害福祉サービス利用の状況

障害の種類	n	等訪問支援、居宅訪問支援、重度障害者等包括支援所	訪問系支援（居宅介護、重度訪問介護、児童発達支援、生活介護）	通所系支援（放課後等デイサービス、児童発達支援、生活介護）	入所系支援（短期入所、療養介護、施設入所支援、障害児入所支援）	外出支援（同行支援、行動援護、移動支援）	訓練・自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）	訓練・就労支援（就労継続支援（A型・B型）、就労移行支援、就労定着支援、自立訓練（機能訓練、生活訓練）	居住支援（グループホーム）	地域定着支援	相談支援（計画相談支援、障害児相談支援、自立生活援助、地域移行支援、	その他	障害福祉サービスは利用していない	本人ではないためわからない
		全体	2,072	223	256	111	104	197	54	151	29	1,336	12	64.5
	100.0	10.8	12.3	5.4	5.0	9.5	2.6	7.3	1.4	64.5	0.6			
肢体不自由（車椅子必要）	218	39.7	31.2	33.0	18.5	14.6	11.4	17.8	0.3	24.7	0.5			
肢体不自由（車椅子不要）	592	9.7	16.1	2.5	2.6	7.1	1.1	2.9	2.6	68.9	1.1			
視覚障害	128	26.2	13.2	8.5	24.0	13.2	7.2	12.2	0.2	52.5	0.0			
聴覚障害	212	19.8	14.9	16.2	13.7	8.4	5.8	8.3	0.0	63.1	0.0			
音声・言語・そしゃく機能障害	114	18.4	33.4	15.0	12.6	14.1	18.3	14.6	5.9	46.1	0.0			
内部障害	381	8.3	6.7	3.6	5.4	4.0	2.0	2.3	0.2	83.7	0.0			
知的障害	356	11.5	22.5	10.4	8.4	21.6	8.4	16.7	1.6	36.7	1.2			
発達障害	202	10.3	20.8	6.5	9.2	22.9	6.1	21.7	2.1	46.4	0.8			
精神障害	436	11.5	6.9	4.5	4.5	16.4	4.0	14.7	2.4	59.7	0.1			
その他	26	9.8	13.9	6.7	6.8	3.8	2.8	13.1	0.2	73.2	0.0			

(%)

第5表 障害の種類、障害児・者の2024年に文化芸術を直接鑑賞した割合とそのジャンル

障害の種類	n	音楽（オペラ、ジャズ、ポップス、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポピュラス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクト、デジタルアートなど）	博物館、民俗系の博物館、資料館など	歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、博物館、民俗系の博物館、資料館など	地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	その他	鑑賞したものはない	本人ではないためわからない	いずれか鑑賞（1-11）
全体	2,072	346	381	129	79	72	123	130	616	410	159	6	1,013	10	1,048	
	100.0	16.7	18.4	6.2	3.8	3.5	5.9	6.3	29.7	19.8	7.7	0.3	48.9	0.5	50.6	
肢体不自由（車椅子必要）	218	24.5	22.8	13.7	7.1	6.6	7.6	13.0	24.5	20.7	10.7	0.2	42.9	0.2	56.9	
肢体不自由（車椅子不要）	592	17.2	17.4	6.0	4.4	2.3	6.8	6.8	29.1	22.3	11.6	0.0	51.4	0.3	48.3	
視覚障害	128	19.6	22.6	9.2	6.5	5.5	5.7	8.1	37.5	31.9	4.9	0.0	41.0	0.0	59.0	
聴覚障害	212	20.5	26.0	8.9	3.6	6.8	12.0	12.1	28.8	21.3	12.9	0.0	45.8	0.1	54.0	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	33.6	30.5	12.3	11.4	23.6	19.7	24.6	36.1	41.0	23.3	0.0	38.3	0.2	61.5	
内部障害	381	11.9	27.1	5.6	4.9	5.1	5.6	8.8	37.7	24.6	8.0	0.1	42.7	0.2	57.1	
知的障害	356	18.8	12.8	8.5	5.2	5.0	8.0	5.8	29.4	15.7	8.3	0.9	48.0	2.3	49.7	
発達障害	202	23.2	18.6	11.0	7.4	7.3	9.3	8.0	33.9	21.1	9.1	0.9	41.3	1.2	57.6	
精神障害	436	19.9	14.2	6.8	3.6	4.1	5.1	6.4	28.2	16.5	6.9	0.6	51.6	0.9	47.5	
その他	26	11.5	5.8	2.9	0.0	4.3	4.7	3.8	39.0	8.8	10.0	1.8	47.2	0.0	52.8	

(%)

第6表 障害の種類、障害児・者の2024年に文化芸術を直接鑑賞した日数

障害の種類	n	（週 年に 13 5日 1以上 日以上）	（週 年に 51 1日 2日 1 50日）	（月 年に 11 2日 3日 5 0日）	（3 年 か 4月 日に 1日 12 日）	年 に 1 日 3 日	わ か ら な い	ウ エ イ ト 平 均 （日）
全体	1,048	24	61	142	272	479	71	18.1
	100.0	2.3	5.8	13.5	25.9	45.6	6.8	18.1
肢体不自由（車椅子必要）	124	6.3	9.0	27.8	18.9	29.0	9.0	33.4
肢体不自由（車椅子不要）	286	2.1	3.6	12.0	21.8	51.8	8.6	14.9
視覚障害	76	9.7	6.3	16.5	25.7	32.4	9.4	33.7
聴覚障害	115	4.4	16.3	17.3	18.0	35.6	8.3	34.3
音声・言語・そしゃく機能障害	70	9.2	5.4	13.5	23.1	47.6	1.2	28.2
内部障害	218	2.5	1.6	16.9	37.8	37.7	3.5	15.2
知的障害	177	7.8	9.8	12.9	15.9	42.9	10.8	32.7
発達障害	116	6.9	8.3	11.2	19.4	48.0	6.3	27.6
精神障害	207	4.5	4.7	11.3	20.6	49.7	9.2	20.3
その他	14	0.0	0.0	7.2	12.7	76.7	3.5	4.9

(%)

第7表 障害の種類、障害児・者の合理的配慮を求めた経験

障害の種類	n	あ る	な い
全体	1,048	344	704
	100.0	32.8	67.2
肢体不自由（車椅子必要）	124	71.4	28.6
肢体不自由（車椅子不要）	286	22.0	78.0
視覚障害	76	45.5	54.5
聴覚障害	115	50.0	50.0
音声・言語・そしゃく機能障害	70	51.2	48.8
内部障害	218	28.9	71.1
知的障害	177	47.4	52.6
発達障害	116	38.1	61.9
精神障害	207	34.6	65.4
その他	14	14.5	85.5

※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞した人ベース

(%)

第8表 障害の種類、障害児・者の適切な合理的配慮の経験

障害の種類	n	が 適 と 切 ら な れ 対 た 応	か は 適 つ と 切 た ら な れ 対 な 応
全体	344	300	44
	100.0	87.1	12.9
肢体不自由（車椅子必要）	89	95.7	4.3
肢体不自由（車椅子不要）	63	86.1	13.9
視覚障害	34	78.5	21.5
聴覚障害	57	91.9	8.1
音声・言語・そしゃく機能障害	36	93.3	6.7
内部障害	63	94.0	6.0
知的障害	84	86.2	13.8
発達障害	44	85.4	14.6
精神障害	72	82.8	17.2
その他	2	100.0	0.0

※文化芸術活動を直接鑑賞するにあたり合理的配慮を求めた人ベース

(%)

第9表 障害の種類、障害児・者の2024年に文化芸術を直接鑑賞しなかった理由

障害の種類	n	近くで公演や展覧会などをやっていないから	入場料・交通費など費用がかかり過ぎるから	難だから	公演や展覧会などが人気で、チケットの入手が困難	文化芸術を鑑賞する時間がなかなかとれないから	夜間に公演や展覧会などが行われないから	魅力ある公演や展覧会などが少ないから	公演や展覧会などの情報が入手できないから	一緒に行く仲間がないから	テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる（鑑賞した）から	周りに迷惑がかかるから	送迎サポートがないから	字幕表示等の鑑賞サポートが不十分だから	文化芸術に関心がないから	等、バリアフリー対策が不十分だから	観が入りできないから	エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保	その他	特に理由はない	本人ではないためわからない
全体	1,013	199	196	18	43	7	108	26	123	109	62	47	8	192	52	74	66	348	1		
	100.0	19.7	19.3	1.7	4.3	0.7	10.7	2.5	12.2	10.8	6.1	4.7	0.8	18.9	5.2	7.3	6.6	34.4	0.1		
肢体不自由（車椅子必要）	93	22.9	8.0	0.7	8.8	0.1	0.6	1.8	12.4	24.1	13.8	11.5	0.0	4.3	31.3	22.9	16.7	25.0	0.0		
肢体不自由（車椅子不要）	304	25.5	18.8	2.1	3.0	0.2	9.6	0.5	8.5	9.7	9.0	7.3	0.0	18.8	6.7	13.9	6.3	38.7	0.0		
視覚障害	53	44.1	19.1	1.5	0.0	0.3	4.8	2.1	12.8	18.6	12.5	0.8	0.0	32.2	0.0	26.8	12.2	6.3	0.0		
聴覚障害	97	14.8	3.9	1.7	0.3	1.0	14.1	7.0	22.0	1.4	15.3	7.1	6.9	21.9	7.2	21.1	1.3	27.3	0.0		
音声・言語・そしゃく機能障害	44	1.2	5.5	1.8	0.6	0.3	1.8	0.0	2.4	0.0	3.2	1.2	0.0	64.0	1.2	4.4	3.7	19.6	2.0		
内部障害	163	20.6	24.4	0.9	3.1	0.9	17.5	0.8	9.9	10.2	4.5	0.8	0.0	18.2	0.2	4.8	7.6	36.8	0.0		
知的障害	171	13.6	16.3	2.1	4.3	2.0	7.8	2.9	11.8	6.9	10.3	4.8	0.5	18.1	0.6	1.8	3.6	44.2	0.0		
発達障害	83	22.2	18.3	2.1	6.5	2.6	8.1	5.2	21.4	15.3	7.1	2.7	0.0	18.8	1.3	1.5	11.0	31.5	1.1		
精神障害	225	21.3	29.1	3.1	7.8	1.8	10.4	4.5	13.1	13.9	6.6	4.9	0.0	17.9	4.4	7.5	6.9	27.4	0.0		
その他	12	8.8	13.4	5.8	0.0	0.0	6.2	58.0	60.1	6.0	3.2	6.2	0.0	0.0	6.2	2.1	3.5	13.1	0.0		

※2024年の1年間に文化芸術を直接鑑賞しなかった人ベース

(%)

第10表 障害の種類、障害児・者の今後直接鑑賞したい文化芸術

障害の種類	n	楽、ジャズ、オペラ、ポップス、ロック、歌謡曲など	音楽（オペラ、ポップス、ロック、室内楽、合唱、吹奏	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など	歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	その他	特にない	本人ではないためわからない
全体	2,072	721	648	395	163	249	392	237	827	824	318	4	521	35	
	100.0	34.8	31.3	19.1	7.9	12.0	18.9	11.5	39.9	39.8	15.3	0.2	25.1	1.7	
肢体不自由（車椅子必要）	218	41.5	40.7	26.9	14.7	18.1	16.4	17.6	35.4	47.0	21.1	0.0	12.0	3.6	
肢体不自由（車椅子不要）	592	35.6	28.8	17.2	4.3	6.7	23.5	7.5	34.3	38.4	16.8	0.1	27.1	0.4	
視覚障害	128	45.7	41.2	27.7	13.0	9.6	21.5	14.2	44.2	45.1	14.3	0.6	20.7	0.6	
聴覚障害	212	35.6	40.2	18.1	11.7	15.5	21.5	18.6	35.2	55.5	27.2	0.1	22.0	0.7	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	42.0	40.1	27.6	25.9	25.8	39.0	30.3	36.5	49.5	30.6	0.0	26.2	1.9	
内部障害	381	28.0	35.7	22.8	6.6	18.6	16.2	11.7	49.0	49.5	17.3	0.0	19.7	2.1	
知的障害	356	29.5	19.5	16.4	9.1	10.4	13.6	11.6	38.0	24.2	13.4	0.4	30.3	5.6	
発達障害	202	39.5	32.6	24.5	13.1	14.9	17.6	13.9	49.5	33.5	13.9	0.7	26.5	2.5	
精神障害	436	42.5	31.0	22.2	11.2	14.9	21.5	15.4	42.0	37.1	15.6	0.5	27.8	0.6	
その他	26	49.5	47.1	13.5	13.4	32.7	52.2	35.1	78.3	49.9	43.4	0.0	11.5	0.0	

(%)

第11表 障害の種類、障害児・者の4年前（2021年頃）と比較した、直接鑑賞に係る環境の変化

障害の種類	n	し や す く な っ た	し 以 前 よ り 、 直 接 鑑 賞	す 以 前 よ り 、 や や し や	あ ま り 変 わ ら な い	く 以 前 よ り 、 や や し に	し 以 前 よ り 、 直 接 鑑 賞	よ く わ か ら な い	判 断 で き な い た め 、	た 鑑 賞 し （ 1 - 2 ）	た 鑑 賞 し （ 4 - 5 ）
全体	2,072	208	292	755	77	53	662	26	500	129	
	100.0	10.0	14.1	36.4	3.7	2.5	31.9	1.2	24.1	6.2	
肢体不自由（車椅子必要）	218	19.1	12.8	28.7	6.4	5.0	27.8	0.2	31.9	11.4	
肢体不自由（車椅子不要）	592	5.8	11.4	42.2	4.7	1.5	32.9	1.5	17.3	6.2	
視覚障害	128	10.1	19.9	30.2	6.1	5.2	28.0	0.6	29.9	11.3	
聴覚障害	212	20.4	25.8	25.2	3.5	1.3	23.8	0.0	46.3	4.8	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	14.6	19.6	10.1	1.2	3.3	49.8	1.4	34.2	4.5	
内部障害	381	9.2	13.2	45.1	5.3	0.2	27.0	0.1	22.4	5.5	
知的障害	356	13.1	15.2	30.6	3.6	3.8	29.1	4.6	28.3	7.4	
発達障害	202	14.7	15.8	33.6	3.7	5.6	25.3	1.3	30.5	9.3	
精神障害	436	11.3	14.8	33.3	2.4	4.2	33.5	0.6	26.1	6.6	
その他	26	2.5	10.5	39.2	0.0	8.1	36.4	3.3	13.0	8.1	

(%)

第12表 障害の種類、障害児・者の文化芸術の直接鑑賞経験の整備状況で整ってきたと感じるもの

障害の種類	n	ム ー ズ に 移 動 で き た	ロ ー プ や エ レ ベ ー タ ー な ど で ス	出 入 口 や 館 内 の 段 差 が な く 、 ス	車 椅子 に 配 慮 し た 設 備 が 整 つ て い た	車 椅子 座 席 や 多 目 的 ト イ レ な ど 、 障	た る 情 報 が よ く 配 慮 さ れ た の だ け	施 設 や 公 共 交 通 機 関 か ら の 発 信 さ れ た	で き た ア リ ン グ ル ー プ な ど が 利 用 イ	日 本 語 字 幕 、 手 話 通 訳 、 音 声 ガ イ ド	ス が あ っ た 同 伴 や 移 動 支 援 の サ ー ビ	介 助 者 の 同 伴 や 移 動 支 援 の サ ー ビ	会 や 資 料 な ど が 提 供 さ れ た 事 前 説 明	内 容 理 解 を 助 け る た め の 事 前 説 明	應 が な さ れ て い た 時 間 帯 や 座 席 へ の 配	鑑 賞 し や す い 時 間 帯 や 座 席 へ の 配	ム （ 例 ： ワ ー ク シ ョ ッ プ 付 き 、 少 人 数 制 な ど ） が 用 意 さ れ て い た	障 害 の あ る 方 向 け の 鑑 賞 プ ロ グ ラ ム	ら れ た 鑑 賞 に 関 する 相 談 や ア ド バ イ ス を 受 け	地 域 の 文 化 芸 術 団 体 や 福 祉 施 設 、 行 政 な ど	増 え た 鑑 賞 機 会 が 提 供 さ れ る こ と が	小 ・ 中 学 校 や 特 別 支 援 学 校 な ど	公 演 な ど を 目 に し る 機 会 が 増 え た	障 害 の あ る 方 向 に よ る 機 会 の 増 え た	い て 、 安 心 し て 快 適 に 鑑 賞 で き た	ス タ ッ フ の 方 の 配 慮 が 行 き 届 き た	そ の 他	あ て は ま る も の は な い
全体	500	198	255	138	106	132	96	155	82	68	77	124	174	3	18													
	100.0	39.5	50.9	27.5	21.2	26.4	19.2	30.9	16.4	13.7	15.3	24.8	34.7	0.5	3.5													
肢体不自由（車椅子必要）	70	50.4	54.3	47.3	19.1	47.2	30.8	46.7	20.9	32.7	27.9	37.1	55.1	0.0	0.4													
肢体不自由（車椅子不要）	102	34.5	67.9	37.7	10.8	32.4	20.8	26.5	16.3	15.5	13.8	16.9	40.9	0.0	0.0													
視覚障害	38	50.9	67.9	27.7	33.3	25.7	25.3	42.6	16.7	23.4	24.0	54.1	28.9	1.9	0.0													
聴覚障害	98	49.0	57.6	27.9	31.7	28.8	29.6	37.2	21.8	15.5	20.8	33.1	43.4	0.0	0.3													
音声・言語・そしゃく機能障害	39	47.4	72.5	38.4	30.8	34.6	32.9	40.6	35.4	38.6	32.0	37.9	50.7	0.0	4.2													
内部障害	85	53.9	49.0	22.5	24.5	38.2	13.6	46.3	5.2	8.0	8.9	14.3	37.4	0.0	2.9													
知的障害	101	31.8	36.0	26.7	25.0	25.7	20.7	27.2	24.5	26.7	25.4	26.0	30.0	0.4	6.2													
発達障害	62	30.7	42.0	20.7	27.4	28.7	20.6	29.5	27.2	20.3	25.7	32.8	40.4	2.3	6.5													
精神障害	114	40.1	51.1	32.1	27.4	23.2	23.9	33.3	25.9	19.4	17.1	33.4	36.9	1.1	6.7													
その他	3	35.3	77.5	20.9	21.7	21.7	0.0	63.8	21.7	21.7	0.0	43.8	0.0	0.0	0.0													

※以前より、直接鑑賞しやすくなった・ややしやすくなった人ベース

(%)

第13表 障害の種類、障害児・者の2024年に直接鑑賞以外の方法で鑑賞した文化芸術の割合とそのジャンル

障害の種類	n	謡曲など)	音楽（オペラ、オーケストラ、ジャズ、ポップス、ロック、合奏、吹奏楽、歌	写真、デザイン、建築、服飾など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、書、	演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他生活に係る文化）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクトジェクションマップビン	民俗系の博物館、資料館など	歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、	地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	その他	鑑賞したものはない	本人ではないためわからない
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
全体	2,072	629	304	195	135	141	312	165	789	389	146	10	788	20			
	100.0	30.3	14.7	9.4	6.5	6.8	15.0	8.0	38.1	18.8	7.0	0.5	38.0	1.0			
肢体不自由（車椅子必要）	218	35.6	26.0	20.9	19.2	11.8	21.3	15.3	43.3	16.6	13.7	0.2	24.4	0.4			
肢体不自由（車椅子不要）	592	31.4	13.9	6.1	3.6	4.2	18.4	5.8	39.1	18.6	3.9	0.0	34.4	0.4			
視覚障害	128	41.0	22.5	18.6	21.1	6.9	23.6	7.9	54.1	29.7	7.8	0.3	29.9	0.0			
聴覚障害	212	30.3	19.3	14.8	12.5	12.2	17.4	21.2	40.4	28.9	14.3	3.0	37.9	0.5			
音声・言語・そしゃく機能障害	114	33.4	26.5	29.8	17.1	30.0	32.5	24.3	43.2	28.8	17.7	0.0	36.2	1.4			
内部障害	381	30.0	16.2	10.0	4.5	8.5	16.4	10.4	37.0	23.1	9.5	0.0	42.2	0.5			
知的障害	356	24.5	10.0	9.5	5.6	7.3	9.7	7.6	34.2	12.2	7.3	0.3	42.0	4.5			
発達障害	202	34.5	12.6	11.2	8.3	7.9	16.0	8.8	44.8	13.7	10.1	0.8	35.3	2.4			
精神障害	436	35.6	13.1	10.8	7.8	6.6	12.8	6.9	37.0	15.3	7.6	0.6	38.9	0.9			
その他	26	45.7	31.3	4.7	7.2	7.1	64.8	31.3	71.7	35.9	34.9	1.8	22.0	0.0			

(%)

第14表 障害の種類、障害児・者の2024年の鑑賞以外の文化芸術活動の実施・参加状況

障害の種類	n	創作活動をした	発表をした	援（その活動など）	（ポラ他の活動をした	特に行っていない	か本人ではないためわからない
		割合	割合	割合	割合	割合	割合
全体	2,072	246	96	21	1,758	13	
	100.0	11.9	4.6	1.0	84.8	0.6	
肢体不自由（車椅子必要）	218	25.8	10.0	0.2	72.0	0.4	
肢体不自由（車椅子不要）	592	6.0	4.3	2.4	89.7	0.2	
視覚障害	128	25.6	8.4	0.7	72.0	0.1	
聴覚障害	212	27.0	8.0	0.2	72.2	0.3	
音声・言語・そしゃく機能障害	114	29.7	14.3	0.4	67.3	1.3	
内部障害	381	8.4	4.4	0.3	88.7	0.1	
知的障害	356	19.8	9.4	1.0	73.2	3.0	
発達障害	202	22.2	9.0	1.3	74.0	1.3	
精神障害	436	12.6	6.9	1.2	84.2	0.3	
その他	26	5.7	0.0	4.7	89.6	0.0	

(%)

**第15表 障害の種類、障害児・者の2024年の文化芸術活動の
実践・参加状況（鑑賞以外）[創作活動をした]**

障害の種類	n	行 仕 つ 事 た ・ 報 酬 を 得 て	活 趣 動 味 で な 行 ど つ 個 た 人 的 な	行 福 つ 社 た 施 設 の 活 動 で	動 学 な 校 ど の で 授 行 業 つ や た 部 活	行 そ つ の た 他 の 活 動 で
全体	246	45	185	68	36	6
	100.0	18.3	75.1	27.6	14.6	2.4
肢体不自由（車椅子必要）	56	12.8	85.7	43.7	22.5	1.4
肢体不自由（車椅子不要）	35	22.7	88.3	17.5	15.1	4.5
視覚障害	33	18.6	63.5	69.0	16.5	1.5
聴覚障害	57	21.4	86.9	31.7	22.3	0.8
音声・言語・そしゃく機能障害	34	18.7	80.8	51.7	32.3	1.4
内部障害	32	33.8	66.6	41.9	17.3	1.5
知的障害	71	25.8	59.7	38.2	29.6	3.1
発達障害	45	24.7	72.2	39.0	28.1	3.9
精神障害	55	23.7	74.2	35.0	15.8	7.1
その他	1	0.0	17.4	0.0	82.6	0.0

※2024年の1年間に創作活動をした人ベース

(%)

**第16表 障害の種類、障害児・者の2024年の文化芸術活動の
実践・参加状況（鑑賞以外）[発表をした]**

障害の種類	n	行 仕 つ 事 た ・ 報 酬 を 得 て	活 趣 動 味 で な 行 ど つ 個 た 人 的 な	行 福 つ 社 た 施 設 の 活 動 で	動 学 な 校 ど の で 授 行 業 つ や た 部 活	行 そ つ の た 他 の 活 動 で
全体	96	21	71	44	25	3
	100.0	21.4	73.6	45.9	25.8	2.8
肢体不自由（車椅子必要）	22	24.4	78.9	76.2	53.8	2.2
肢体不自由（車椅子不要）	26	22.5	88.9	48.5	14.1	6.2
視覚障害	11	45.3	65.4	61.0	42.2	4.4
聴覚障害	17	20.8	83.2	75.2	55.3	2.8
音声・言語・そしゃく機能障害	16	22.2	86.0	81.9	62.4	2.9
内部障害	17	26.0	86.6	77.8	26.1	4.5
知的障害	34	42.2	52.9	51.4	39.8	1.4
発達障害	18	37.2	69.2	39.6	48.3	2.6
精神障害	30	35.8	79.9	39.5	19.6	7.9
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※2024年の1年間に発表をした人ベース

(%)

第17表 障害の種類、障害児・者の2024年の文化芸術活動の
実践・参加状況（鑑賞以外）

〔その他の活動をした（ボランティア・支援活動など）〕

障害の種類	n	行 つ 事 た ・ 報 酬 を 得 て	活 趣 動 味 で な 行 つ 個 た 人 的 な	行 福 つ 社 た 施 設 の 活 動 で	動 学 な 校 の で 授 業 つ や た 部 活	行 そ つ の た 他 の 活 動 で
全体	21	3	10	4	1	9
	100.0	11.8	45.1	19.2	5.6	42.9
肢体不自由（車椅子必要）	0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
肢体不自由（車椅子不要）	14	3.4	49.3	8.2	3.4	49.3
視覚障害	1	52.8	100.0	52.8	52.8	52.8
聴覚障害	0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
音声・言語・そしゃく機能障害	0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
内部障害	1	40.5	100.0	63.8	63.8	63.8
知的障害	4	34.7	68.0	54.5	25.9	13.7
発達障害	3	45.5	90.3	74.3	17.9	37.0
精神障害	5	33.0	31.0	36.5	8.9	45.0
その他	1	60.7	100.0	60.7	0.0	0.0

※2024年の1年間にその他の活動をした人ベース

(%)

第18表 障害の種類、障害児・者の2024年に文化芸術を行った日数
（鑑賞以外）

障害の種類	n	（週 年 に 1 3 5 日 1 以 上 以 上 ）	（週 年 に 5 1 1 日 2 日 1 5 0 ）	（月 年 に 1 1 2 日 3 日 5 0 日 ）	（3 年 か 4 月 に 1 日 1 日 ）	年 に 1 日 3 日	わ か ら な い	ウ エ イ ト 平 均 （日）
全体	1,303	62	91	153	149	311	538	34
	100.0	4.7	7.0	11.7	11.5	23.8	41.3	34.1
肢体不自由（車椅子必要）	165	5.5	7.5	22.5	21.3	20.1	23.0	33.6
肢体不自由（車椅子不要）	400	1.7	4.9	8.5	12.9	22.4	49.6	23.5
視覚障害	90	7.7	6.5	11.8	11.4	20.7	42.0	42.3
聴覚障害	132	9.1	18.0	27.4	4.1	12.0	29.4	60.3
音声・言語・そしゃく機能障害	78	8.1	6.5	22.2	10.1	14.4	38.6	46.1
内部障害	227	8.0	7.0	6.4	5.0	25.6	48.0	45.1
知的障害	199	9.2	8.8	13.3	10.4	26.8	31.6	43.6
発達障害	131	9.5	10.3	11.9	9.9	24.0	34.5	47.8
精神障害	269	8.6	8.2	10.2	10.6	28.8	33.6	41.2
その他	21	0.0	3.5	30.3	33.8	21.7	10.8	17.8

※鑑賞以外の活動をいずれか行っている人ベース

(%)

第19表 障害の種類、障害児・者の2024年に鑑賞以外の文化芸術活動を行わなかった理由

障害の種類	n	他の活動で充実しているから	関心がある文化芸術活動が身近な場所で行われていないから	情報が入手できないから	時間がないから	経済的な余裕がないから	活動のためのスキル・技能を習得するのが困難だから	活動を行う上でのサポートが不十分だから	送迎サポート、手話通訳、音声ガイド、点字による資料提供などの文化芸術活動	一緒に活動する仲間がないから	文化芸術活動に関心がないから	から	エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策がされていないから	エレベーターやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策がされていないから	その他	特に理由はない	本人ではないためわからない
全体	748	51	59	39	86	138	45	7	63	123	25	45	5	343	2		
	100.0	6.8	7.9	5.3	11.5	18.5	6.0	0.9	8.5	16.4	3.3	6.1	0.6	45.9	0.2		
肢体不自由（車椅子必要）	51	16.5	14.8	13.0	10.1	11.3	6.1	0.0	8.9	7.5	4.6	18.5	2.2	44.6	0.8		
肢体不自由（車椅子不要）	190	0.9	8.7	3.5	11.3	20.2	1.2	0.2	4.1	9.6	10.5	17.9	0.0	57.7	0.0		
視覚障害	38	19.4	8.5	2.5	6.8	25.2	0.0	1.1	2.5	23.5	19.4	19.4	0.0	45.5	0.0		
聴覚障害	79	1.9	0.4	0.7	9.3	9.3	1.2	0.0	16.6	27.5	8.1	8.1	0.0	53.0	0.0		
音声・言語・そしゃく機能障害	34	3.1	7.3	1.6	3.6	6.5	0.8	1.3	1.6	58.9	0.0	0.0	1.4	26.9	0.0		
内部障害	153	13.2	13.5	8.6	6.9	17.7	13.0	0.7	13.2	13.8	0.0	4.2	1.3	30.3	0.3		
知的障害	140	2.8	5.3	6.0	11.7	15.5	6.5	2.5	5.9	10.9	0.3	0.3	0.6	59.0	1.1		
発達障害	66	8.2	9.9	7.4	19.4	19.7	10.6	2.3	10.8	11.5	1.7	1.7	0.7	44.8	1.1		
精神障害	163	6.1	7.8	5.4	14.1	30.8	6.4	1.5	9.8	17.6	1.4	5.4	1.4	40.0	0.3		
その他	5	2.8	13.6	25.3	25.6	35.8	0.0	0.0	29.6	0.0	0.0	0.0	0.0	17.9	0.0		

※鑑賞以外の活動をいずれも行わなかった人ベース

(%)

第20表 障害の種類、障害児・者の鑑賞以外の文化芸術活動への参加・興味の有無

障害の種類	n	音楽（オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポプス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など）	演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど）	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクトジェクションマッピング）など	歴史的文化財（建造物、城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など	地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）	美術館・博物館・劇場・音楽堂などにおける案内や解説などの支援	子ども・高齢者・障害のある方・在住外国人の文化芸術活動の支援	その他	特にない	本人ではないためわからない
全体	2,072	475	382	184	79	129	183	205	472	427	194	230	234	19	897	23
	100.0	22.9	18.5	8.9	3.8	6.2	8.8	9.9	22.8	20.6	9.3	11.1	11.3	0.9	43.3	1.1
肢体不自由（車椅子必要）	218	35.9	27.9	17.5	10.6	12.7	13.7	20.4	19.6	22.6	12.8	19.6	33.1	0.2	25.3	0.4
肢体不自由（車椅子不要）	592	22.3	16.5	7.1	2.0	3.5	9.6	10.3	21.4	21.8	10.8	9.4	9.4	2.3	49.7	0.1
視覚障害	128	27.1	26.6	9.0	7.2	6.0	7.9	8.5	41.6	28.5	5.4	19.8	23.6	0.4	33.6	0.3
聴覚障害	212	25.7	23.0	11.2	7.1	10.7	13.7	12.1	24.2	23.9	10.3	22.5	12.4	0.2	36.1	3.7
音声・言語・そしゃく機能障害	114	37.5	38.3	24.4	16.2	11.8	24.5	25.1	23.8	32.4	24.3	26.2	19.9	0.6	30.7	2.3
内部障害	381	18.0	20.9	8.0	3.9	10.3	11.0	8.4	32.7	24.2	12.6	10.6	12.1	0.7	37.9	0.3
知的障害	356	20.3	14.9	11.4	6.4	6.1	7.4	9.7	23.6	15.2	9.4	11.1	14.7	0.3	42.3	4.1
発達障害	202	26.5	19.9	13.9	7.2	8.8	10.0	11.9	32.6	20.6	10.8	13.5	16.9	0.8	37.2	1.9
精神障害	436	27.7	19.2	13.2	6.7	7.7	8.8	11.5	22.1	17.4	10.3	11.4	12.4	0.9	45.1	0.5
その他	26	10.1	32.5	5.0	0.0	0.0	5.0	7.4	31.6	33.4	9.1	7.7	12.4	0.0	23.6	0.0

(%)

付1 障害者の文化芸術活動の実施状況調査の概要

1 調査の目的

文部科学省及び厚生労働省では、令和5年3月に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（平成30年法律第47号）」に基づく「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」（以下、「第2期基本計画」という。）を策定し、文化庁において「障害者等による文化芸術活動推進事業」を実施している。当該事業において、「第2期基本計画における目標の進捗を把握するための指標」の状況等を確認するため、本調査を実施する。なお、本調査は「障害者の文化芸術活動の実施状況調査」（令和3年度文化庁委託事業）を参照し、継続して調査を行うものである。

2 調査方法

インターネット調査

3 調査地域

全国

4 調査対象者

インターネット会社が保有するリサーチモニターのうち、下記に該当する者を抽出し、調査対象とした

- ・7歳以上の障害児・者（対象者の年齢が、7歳から15歳の場合は代理による回答。70歳以上の場合は本人による回答と代理による回答）
- ・障害児・者本人あるいは同居する家族

5 回収結果

実施調査を行い、対象者 2,072 人から有効回収を得た。
なお、サンプル数の割付と補正については次項に記載。

6 調査期間

2025年9月4日（木）から2025年9月9日（火）の6日間

7 回答者の性別・年齢構成・居住地

性別	補正前%	補正後%
男性	57.6	66.4
女性	42.3	33.5
その他	0.0	0.0
回答しない	0.1	0.0

年齢	補正前%	補正後%
7～9歳	5.4	1.0
10～15歳	5.4	2.3
16～19歳	5.4	2.4
20～29歳	15.0	7.0
30～39歳	14.9	6.3
40～49歳	14.9	9.2
50～59歳	15.9	11.0
60～69歳	13.5	37.1
70歳以上	9.7	23.7

居住地域	補正前%	補正後%
北海道	5.4	6.4
東北地方	6.6	5.7
関東地方	30.7	30.5
中部地方	18.1	17.4
近畿地方	19.3	19.3
中国地方	5.4	4.6
四国地方	3.2	4.4
九州地方	11.2	11.8

付2 調査における割付と補正

1 サンプル数と割付

今回の調査では、「令和4年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」における障害者手帳の所持者数を参考にしつつ、「障害者手帳の種別」および「年齢（7区分）」ごとに、比較分析ができるよう均等にサンプルを割り付けた（図表1）。なお、「令和4年生活のしづらさなどに関する調査」では「0～9歳」の区分となっていることから、今回対象とする「7～9歳」については、令和2年国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）より、0～9歳に占める7～9歳の人口割合（32.2%）から推計して算出した（図表2・3・4）。

※均等割付とは、年齢や性別などの属性ごとに、あらかじめ同数のサンプルを確保する方法を指す。
 ※均等割付により各グループ間の比較は容易になるが、母集団の構成比とは異なるため、最終集計では補正を行っている（次項に記載）。

図表1 本調査の目標回収数

回答対象		年齢	全体	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
			2,000	667	666	667
代理回答		7～9歳	105	35	35	35
代理回答		10～15歳	105	35	35	35
本人回答		16～19歳	105	35	35	35
本人回答		20～29歳	300	100	100	100
本人回答		30～39歳	300	100	100	100
本人回答		40～49歳	300	100	100	100
本人回答		50～59歳	300	100	100	100
本人回答		60～69歳	300	100	100	100
本人回答		70歳以上	95	32	31	32
代理回答		70歳以上	90	30	30	30

※本人もしくは代理回答いずれかで該当

※複数回答のため重複の方は出現が少ない方に割付

図表2 7歳以上の各障害者手帳所持者数等の推計値

（単位：千人）

年齢	障害者手帳の種類（複数回答）		
	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
7～9歳*	15	40	5
10～14歳	31	97	17
15～19歳	28	98	25
20～29歳	87	230	116
30～39歳	86	148	158
40～49歳	205	132	232
50～59歳	344	95	245
60～69歳	625	54	153
70歳～	2,591	140	207

出典：厚生労働省「令和4年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」、総務省「令和2年国勢調査人口等基本集計」を基に作成

図表 3 (参考：0～9歳の各障害者手帳所持者数等の推計値)

(単位：千人)

年齢	障害者手帳の種類 (複数回答)		
	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者 保健福祉手帳
0～9歳	47	124	16
10～14歳	31	97	17
15～19歳	28	98	25
20～29歳	87	230	116
30～39歳	86	148	158
40～49歳	205	132	232
50～59歳	344	95	245
60～69歳	625	54	153
70歳～	2,591	140	207

出典：厚生労働省「令和4年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」

図表 4 (参考：0～9歳の人口)

(単位：千人)

年齢	男	女	計	比率	今回調査対象年齢
0歳	425	407	832	8.7%	対象外
1歳	443	423	867	9.0%	
2歳	466	444	910	9.5%	
3歳	478	456	934	9.7%	
4歳	499	474	974	10.1%	
5歳	511	487	999	10.4%	
6歳	511	485	997	10.4%	
7歳	522	499	1,021	10.6%	対象
8歳	524	500	1,024	10.7%	
9歳	538	511	1,049	10.9%	
0～9歳計	4,918	4,687	9,605	100.0%	

0～9歳のうち、7～9歳の人口割合 32.2%

出典：総務省「令和2年国勢調査人口等基本集計」

2 補正について

本調査では、年齢および障害者手帳の種類ごとに均等にサンプルを割り付けて回収しているため、実際の障害者手帳所持者の構成比とは一致していない。

そのため、集計結果を実態に近づける目的で、障害者手帳の種類および年齢区分別の母集団構成比を基準に、ウェイト補正（ウェイトバック集計）を行った（図表5）。

補正後の集計値は、各属性の回答が実際の構成比に応じて反映されるよう調整されており、本報告書に掲載する集計結果は、特記のない限りこの補正後データに基づいている。なお、補正はインターネット調査の特性による回答者属性の偏りを是正する目的も含んでいる。

図表5 障害者手帳の種類別・年齢別回収数および推計値・補正值一覧

No	障害者手帳の種類 (複数回答)	年齢	本調査回収数	障害者手帳所持者の推計値		補正值
				推計人数 (千人)	構成比	
1	身体障害者手帳	7～9歳	37	15	0.24%	0.135863160
2		10～14歳	37	31	0.49%	0.275576471
3		15～19歳	37	28	0.45%	0.253080433
4		20～29歳	103	87	1.41%	0.282838542
5		30～39歳	103	86	1.39%	0.278797991
6		40～49歳	103	205	3.30%	0.664670574
7		50～59歳	103	344	5.54%	1.115191966
8		60歳～※	167	3,216	51.86%	6.434540540
9	療育手帳	7～9歳	37	40	0.64%	0.360490251
10		10～14歳	37	97	1.56%	0.871721491
11		15～19歳	37	98	1.58%	0.882969510
12		20～29歳	104	230	3.71%	0.738313494
13		30～39歳	103	148	2.38%	0.478805246
14		40～49歳	103	132	2.13%	0.428298364
15		50～59歳	123	95	1.54%	0.258841614
16		60歳～※	148	193	3.11%	0.435860746
17	精神障害者 保健福祉手帳	7～9歳	37	5	0.08%	0.045287720
18		10～14歳	37	17	0.28%	0.157472269
19		15～19歳	37	25	0.40%	0.224960385
20		20～29歳	103	116	1.88%	0.377791481
21		30～39歳	103	158	2.54%	0.511129651
22		40～49歳	103	232	3.74%	0.751542412
23		50～59歳	103	245	3.95%	0.793968193
24		60歳～※	167	360	5.80%	0.720209998
計			2,072	6,201	100.0%	

※実際の回収は60歳～69歳、70歳以上と分けて割り付けていたが、高齢層の補正值における極端な変動を抑制するため、最終的な算出に際しては60歳以上の区分を統合している。

付3 アンケート調査票

令和7年度「障害者の文化芸術活動の実施状況」についてのアンケート

SC1		<p>こちらの内容にご同意いただき、本アンケートにご参加いただけますか。</p>
	<p>1 同意する 2 同意しない</p>	<div data-bbox="225 395 605 629" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>当アンケートではあなたご自身やご家族の方が「障えている障害」に関してお伺いする箇所が含まれております。趣旨にご同意くださる方は、「同意する」のご回答をお願いいたします。</p> <p>回答をしたくないと判断された場合は本設問で「同意しない」をご選択いただくか、回答途中でブラウザを閉じて、アンケートを終了していただくことも可能です。 ※「同意しない」を選択した場合、または途中で回答終了された場合、それまでの回答分謝礼は選定されません。</p> <p>※本調査は、上記記載の内容についてお伺いし、それを実態の把握に活用するための調査です。その際に、上記の活用の範囲内において、第三者（調査委託元(官公庁・行政機関)へ情報提供を行います。</p> </div> <p style="text-align: right;">→対象外・終了</p>
SC2		<p>このアンケートは、障害のあるご本人、または障害のあるご家族の方についてお伺いする内容を含みます。あなた、あるいは同居しているご家族の中に、障害のある方はいらっしゃいますか。（いくつでも） ※あなたご自身から見た続柄でお答えください。</p>
	<p>1 あなたご自身 2 配偶者 3 父親 4 母親 5 兄弟 6 姉妹 7 お子様（第1子） 8 お子様（第2子以降） 9 その他親族（叔父・叔母など） 10 あてはまるものはない</p>	<p style="text-align: right;">→対象外・終了</p>
SC3		<p>同居しているご家族の中に障害のある方がいらっしゃる方にお伺いします。 2025年9月2日（火）～2025年9月9日（火）頃に予定しているアンケートに、障害のある同居ご家族の方、もしくはその状況がわかる方と一緒にご回答いただくことは可能ですか。 可能な方は、障害のある同居ご家族のどなたについてご回答されるかお知らせください。</p> <p>※複数あてはまる方は、より身近にいらっしゃる方をお知らせください。 ※ただし、本アンケートに対するポイントは、あなたご自身のみに加算されます。 ※抽選により対象にならない場合もございます。予めご了承ください。 ※上記のアンケート期間は予定です。早期に終了する場合がございます。 ※当選された方には、当該期間中にアンケートの依頼メールをもって、ご連絡いたします。</p>
	<p>1 配偶者 2 父親 3 母親 4 兄弟 5 姉妹 6 お子様（第1子） 7 お子様（第2子以降） 8 その他親族（叔父・叔母など） 9 今回は協力ができない</p>	<p style="text-align: right;">→対象外・終了</p>
SC4		<p>このアンケートは、障害のある方のご意見やご状況をお伺いすることを目的としています。以下のうち、どなたがこのアンケートにご回答されますか。</p>
	<p>1 障害のあるご本人 2 障害のある同居ご家族【SC3の選択内容】（代理） 3 今回はアンケートに協力しない</p>	<p style="text-align: right;">→対象外・終了</p>

① 障害児・者の基本情報	
SC5	<p>障害のあるご家族の方【【SC3の選択内容】】の年齢をお知らせください。</p> <p>障害のあるご家族の方の年齢： <input type="text"/> 歳</p>
SC6	<p>障害のあるご家族の方【【SC3の選択内容】】の性別をお知らせください。</p> <p>1 男性 2 女性 3 その他 4 回答しない</p>
SC7	<p>【【SC4の選択内容】】の障害の種類を、以下の10項目からお選びください。 該当するものをすべて選んでください。</p> <p>1 肢体不自由（車椅子必要） 2 肢体不自由（車椅子不要） 3 視覚障害 4 聴覚障害 5 音声・言語・そしゃく機能障害 6 内部障害 7 知的障害 8 発達障害 9 精神障害 10 その他（FA）</p>
SC8	<p>【【SC4の選択内容】】が日常的に利用されている障害福祉サービスの種類について、以下の選択肢から該当するものをすべて選んでください。</p> <p>1 訪問系支援（居宅介護、重度訪問介護、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、重度障害者等包括支援） 2 通所系支援（放課後等デイサービス、児童発達支援、生活介護） 3 入所系支援（短期入所、療養介護、施設入所支援、障害児入所支援） 4 外出支援（同行支援、行動援護、移動支援） 5 訓練・就労支援（就労継続支援（A型・B型）、就労移行支援、就労定着支援、自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）） 6 居住支援（グループホーム） 7 相談支援（計画相談支援、障害児相談支援、自立生活援助、地域移行支援、地域定着支援） 8 その他（FA） 9 障害福祉サービスは利用していない 10 本人ではないためわからない</p>

本調査	
	② 文化芸術活動（直接鑑賞）の実施状況
見出し	<p>ここからは、事前アンケートで一緒にご回答可能とお答えいただいた、障害のあるご家族の方の、2024年の1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術の状況についてお伺いします。</p> <p>障害のある方ご本人、もしくは、その状況がわかる方に確認しながらご回答をお願いいたします。</p>
Q1	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】は、2024年の1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術を直接鑑賞したことはありますか。該当するものをすべて選んでください。 ※直接鑑賞とは、実際に会場・施設を訪れたりして面前で鑑賞することを指します。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など） 2 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など） 3 演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど） 4 舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど） 5 伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など） 6 芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など） 7 生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化） 8 映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など 9 歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など 10 地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財） 11 その他（FA） 12 鑑賞したものはない 13 本人ではないためわからない
Q2	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】が、2024年の1年間に、文化芸術を直接鑑賞した頻度（合計日数）はどのくらいですか。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 週に3日以上（年151日以上） 2 週に1～2日（年51日～150日） 3 月に1～3日（年12日～50日） 4 3か月に1～2日（年4日～11日） 5 年に1～3日 6 わからない
Q3	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】が文化芸術活動を直接鑑賞するにあたり、文化施設等に対して、いわゆる「合理的配慮※」を求めたことはありますか。 ※「合理的配慮」とは、障害のある方から、社会的障壁（社会の中にあるバリア）を取り除いてほしいという意思が示されたときに、行政機関等や事業者がその人の特性や状況に合わせて調整したり変更したりする対応のことを指します。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 ある 2 ない
Q4	<p>前問で「ある」と答えた方にお伺いします。 求めた合理的配慮について、適切な対応がとられましたか。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 適切な対応がとられた 2 適切な対応はとられなかった

Q5	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】が文化芸術活動を鑑賞しなかった理由はどのようなものですか。該当するものをすべて選んでください。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 近くで公演や展覧会などをやっていないから 2 入場料・交通費など費用がかかり過ぎるから 3 公演や展覧会などが人気で、チケットの入手が困難だから 4 文化芸術を鑑賞する時間がなかなかとれないから 5 夜間に公演や展覧会などが行われないから 6 魅力ある公演や展覧会などが少ないから 7 公演や展覧会などの情報が入手できないから 8 一緒に行く仲間がいないから 9 テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる（鑑賞した）から 10 周りに迷惑がかかるから 11 送迎サポートがないから 12 字幕表示等の鑑賞サポートが不十分だから 13 文化芸術に関心がないから 14 エレベータやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策が不十分だから 15 エレベータやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策がされているかどうかの情報が入手できないから 16 その他（FA） 17 特に理由はない 18 本人ではないためわからない
Q6	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】が、今後（も）、直接鑑賞してみたい文化芸術はありますか。既に鑑賞しているものも含めて、該当するものをすべて選んでください。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など） 2 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など） 3 演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど） 4 舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど） 5 伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など） 6 芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など） 7 生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化） 8 映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など 9 歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など 10 地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財） 11 その他 12 特にない 13 本人ではないためわからない
Q7	<p>4年前（2021年頃）と比較して、障害のある方にとって文化芸術を直接鑑賞することは、以前よりもしやすくなったと感じますか。 ※新型コロナウイルスの影響は考慮に入らずに回答してください。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 以前より、直接鑑賞しやすくなった 2 以前より、ややしやすくなった 3 あまり変わらない 4 以前より、ややしにくくなった 5 以前より、直接鑑賞しにくくなった 6 よくわからない 7 本人ではないため、判断できない

Q8	<p>前問で「以前より、直接鑑賞しやすくなった」「ややしやすくなった」とお答えの方にお伺いします。障害のある方が文化芸術を直接鑑賞しやすくなったのは、どのような点によると思いますか。該当するものをすべて選んでください。</p>		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 出入口や館内の段差がなく、スロープやエレベーターなどでスムーズに移動できた 2 車椅子席や多目的トイレなど、障害に配慮した設備が整っていた 3 施設や公共交通機関から発信される情報がよく配慮されたものだった 4 日本語字幕、手話通訳、音声ガイド、ヒアリングループなどが利用できた 5 介助者の同伴や移動支援のサービスがあった 6 内容理解を助けるための事前説明会や資料などが提供されていた 7 鑑賞しやすい時間帯や座席への配慮がなされていた 8 障害のある方向けの鑑賞プログラム（例：ワークショップ付き、少人数制など）が用意されていた 9 地域の文化芸術団体や福祉施設、行政などで、鑑賞に関する相談やアドバイスを受けられた 10 小・中学校や特別支援学校などで、鑑賞機会が提供されることが増えた 11 障害のある方による作品の展示・公演などを目にする機会が増えた 12 スタッフの方の配慮が行き届いていて、安心して快適に鑑賞できた 13 その他（FA） 14 あてはまるものはない 		
③ 文化芸術活動（鑑賞以外）の実施状況			
Q9	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】は、直接鑑賞以外に、2024年の1年間に、テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネット配信・ストリーミングサービス等により鑑賞したものはありますか。該当するものをすべて選んでください。</p>		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など） 2 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など） 3 演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど） 4 舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど） 5 伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など） 6 芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など） 7 生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化） 8 映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など 9 歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など 10 地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財） 11 その他 12 鑑賞したものはなし 13 本人ではないためわからない 		
Q10	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】は、2024年の1年間に、<u>鑑賞以外に</u>、下記のような文化芸術活動を実践したり参加されたことはありますか。行ったものをすべて選んでください。</p>		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>■ 創作活動 ：新しい作品や表現を生み出す活動</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画、彫刻、工芸、書道などの美術作品の制作 ・演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術の創作 ・映像、メディアアート、マンガ、アニメなどのデジタル・メディア表現 ・障害のある方によるワークショップや共同制作活動 ・地域住民や子どもたちの参加型アートプロジェクト ・伝統芸能の継承と新たな表現の試み </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>■ 発表（作品の公開・展示・上演） ：創造された作品を他者に見せる・聴かせる・共有する機会の提供</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館やギャラリーでの展示会 ・劇場やホールでの公演（演劇・音楽・ダンスなど） ・映像作品の上映会 ・地域イベントやフェスティバルでのライブパフォーマンス ・障害のある方による作品展示や舞台発表 ・オンラインでの作品公開や配信 </td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> 1 創作活動をした 2 発表をした 3 その他の活動をした（ボランティア・支援活動など）（FA） 4 特に行っていない 5 本人ではないためわからない 	<p>■ 創作活動 ：新しい作品や表現を生み出す活動</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画、彫刻、工芸、書道などの美術作品の制作 ・演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術の創作 ・映像、メディアアート、マンガ、アニメなどのデジタル・メディア表現 ・障害のある方によるワークショップや共同制作活動 ・地域住民や子どもたちの参加型アートプロジェクト ・伝統芸能の継承と新たな表現の試み 	<p>■ 発表（作品の公開・展示・上演） ：創造された作品を他者に見せる・聴かせる・共有する機会の提供</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館やギャラリーでの展示会 ・劇場やホールでの公演（演劇・音楽・ダンスなど） ・映像作品の上映会 ・地域イベントやフェスティバルでのライブパフォーマンス ・障害のある方による作品展示や舞台発表 ・オンラインでの作品公開や配信
<p>■ 創作活動 ：新しい作品や表現を生み出す活動</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画、彫刻、工芸、書道などの美術作品の制作 ・演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術の創作 ・映像、メディアアート、マンガ、アニメなどのデジタル・メディア表現 ・障害のある方によるワークショップや共同制作活動 ・地域住民や子どもたちの参加型アートプロジェクト ・伝統芸能の継承と新たな表現の試み 	<p>■ 発表（作品の公開・展示・上演） ：創造された作品を他者に見せる・聴かせる・共有する機会の提供</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館やギャラリーでの展示会 ・劇場やホールでの公演（演劇・音楽・ダンスなど） ・映像作品の上映会 ・地域イベントやフェスティバルでのライブパフォーマンス ・障害のある方による作品展示や舞台発表 ・オンラインでの作品公開や配信 		

Q11	<p>前問でお答えいただいた、鑑賞以外の文化芸術活動について、【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】はどのように実践・参加されましたか。それぞれ該当するものをすべて選んでください。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 創作活動をした 2 発表をした 3 その他の活動をした（ボランティア・支援活動など）【Q10_3FA回答表示】 <ol style="list-style-type: none"> 1 仕事・報酬を得て行った 2 趣味など個人的な活動で行った 3 福祉施設の活動で行った 4 学校の授業や部活動などで行った 5 その他の活動で行った（FA）
Q12	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】が、2024年の1年間に、直接鑑賞以外の文化芸術活動を行った頻度（合計日数）はどのくらいですか。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 週に3日以上（年151日以上） 2 週に1～2日（年51日～150日） 3 月に1～3日（年12日～50日） 4 3か月に1～2日（年4日～11日） 5 年に1～3日 6 わからない
Q13	<p>【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】が、2024年に直接鑑賞以外の文化芸術活動を行わなかった理由はどのようなものですか。理由となるものをすべて選んでください。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 他の活動で充実しているから 2 関心がある文化芸術活動が身近な場所で行われていないから 3 情報が入手できないから 4 時間がないから 5 経済的な余裕がないから 6 活動のためのスキル・技能を習得するのが困難だから 7 送迎サポート、手話通訳、音声ガイド、点字による資料提供などの文化芸術活動を行う上でのサポートが不十分だから 8 一緒に活動する仲間がないから 9 文化芸術活動に関心がないから 10 エレベータやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策が不十分だから 11 エレベータやスロープの設置、車いす席の確保等、バリアフリー対策がされているか否かの情報が入手できないから 12 その他（FA） 13 特に理由はない 14 本人ではないためわからない
Q14	<p>鑑賞以外の文化芸術活動について、【自身：あなた】【代理：障害のあるご家族の方】が今後、実践したり参加したいものがあれば教えてください。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など） 2 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾など） 3 演劇（現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど） 4 舞踊（日本舞踊、バレエ、ダンスなど） 5 伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など） 6 芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など） 7 生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化） 8 映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（プロジェクションマッピング）など 9 歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）、歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など 10 地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財） 11 美術館・博物館・劇場・音楽堂などにおける案内や解説などの支援 12 子ども・高齢者・障害のある方・在住外国人の文化芸術活動の支援 13 その他（FA） 14 特になし 15 本人ではないためわからない

Q15	<p>4年前（2021年頃）と比較して、障害のある方にとって、鑑賞以外の文化芸術活動（創作・発表・販売・交流など）の実践や参加することは、以前よりもしやすくなったと感じますか。</p> <p>※新型コロナウイルスの影響を考慮に入れずに回答してください。</p>
	<p>1 以前より、実践・参加しやすくなった</p> <p>2 以前より、ややしやすくなった</p> <p>3 あまり変わらない</p> <p>4 以前より、ややしくなった</p> <p>5 以前より、実践・参加しにくくなった</p> <p>6 よくわからない</p> <p>7 本人ではないため、判断できない</p>
Q16	<p>前問で「以前より、実践・参加しやすくなった」「ややしやすくなった」とお答えの方にお伺いします。</p> <p>障害のある方が、鑑賞以外の文化芸術活動（創作・発表・販売・交流など）について、実践、参加しやすくなったと感じた理由をすべて選んでください。</p> <p>※新型コロナウイルスの影響を考慮に入れずに回答してください。</p>
	<p>1 地域の文化芸術団体などで作品をつくり発表することができた</p> <p>2 美術館や劇場などで、作品をつくり発表できる場があった</p> <p>3 福祉施設で、作品をつくり発表する場があった</p> <p>4 学校で作品をつくり発表する機会があった</p> <p>5 地域の施設や団体に、創作や発表のことを相談できる場所があった</p> <p>6 自分の作品を、くわしい人に見てもらって、しっかり評価してもらえた</p> <p>7 作品を売ったり、管理してもらえるサポートがあった</p> <p>8 自分の作品のルールや権利（著作権など）が守られていると感じた</p> <p>9 その他（FA）</p> <p>10 あてはまるものはない</p>
④ 障害者文化芸術推進法及び基本計画の認知状況	
Q17	<p>文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることを目的とする、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（障害者文化芸術推進法）」について知っていますか。</p>
	<p>1 知っている</p> <p>2 知らない</p>
Q18	<p>障害者文化芸術推進法に基づき、関係する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定された「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」について知っていますか。</p>
	<p>1 知っている</p> <p>2 知らない</p>

令和7年度

障害者の文化芸術活動の実施状況調査
報告書

発行日 令和8年3月31日

委託 文化庁参事官（生活文化創造担当）

〒602-8959

京都府京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町85-4

受託 株式会社シタシオンジャパン

〒104-0031

東京都中央区京橋2-10-2 ぬ利彦ビル南館 7階